

はじめに

センター長 酒見隆信

地域医療科学教育研究センターは平成14年4月1日に佐賀医科大学医学部附属「地域包括医療高度化推進センター」として学内措置で設置され、平成15年4月1日から医療連携システム部門、福祉健康科学部門、地域包括医療教育部門の3部門からなる医学部付属の省令施設として正式に認められた。平成26年4月1日現在開設12年を迎え、この報告書に記載されているように活動が充実してきています。

医療連携システム部門（部門長 竹生政資教授）は佐賀大学医学部情報関連部門の中核をなしており、学術情報処理センター（医学サブセンター、竹生サブセンター長）、附属病院医療情報部（高崎准教授）の面々が協力し合い医学部・学内情報ネットワークの構築・運用ならびに地域医療連携ネットワーク構築など、地域をキーワードにした医療連携の教育・研究プロジェクトを展開しています。平成20年度採択された総務省地域ICT利活用モデル事業（遠隔医療）（5年間）関連の「ICTを活用したがん登録システムの構築に関する研究」、佐賀県における産学官包括連携協定に基づく連携協力事業（6者協定関連事業）の「地域ICT利活用モデル構築事業（遠隔医療モデルプロジェクト）」が進行中であり、地域医療連携ネットワーク構築の実質化をめざしています。

福祉健康科学部門（部門長 堀川悦夫教授）は高齢者・障がい者の支援についての科学的基盤に基づいた教育・研究活動を行っており、認知神経心理学分野（堀川教授）とリハビリテーション工学分野（松尾准教授）をコアとして構成されています。医師・看護師養成過程の基盤教育や地域での臨床・実践研究をはじめ、医学科・看護学科はもとより、附属病院の各診療科とも共同で活動を行い、地域医療に貢献している。堀川教授は平成22年度終了の佐賀大学先導的プロジェクト研究推進の高度化「医工福祉連携による障がい弱者支援イノベーションプロジェクト」に続き平成21年度～平成24年度に「障がい者の就労支援に関する高等教育カリキュラムの開発―障がい者就労支援コーディネーター養成―」が文部科学省特別教育研究経費、平成23年度～平成25年度「先進的学際アプローチによるヒューマンケア・イノベーション開発」が佐賀大学研究プロジェクトとして採択されております。すでに佐賀県における産学官包括連携協定に基づく連携協力事業（6者協定関連事業）として採択されている「認知症総合サポート事業」は、6者協定事業の中から先導的役割を担う事業として設定されたリーディング事業の方針に合致する事業二のうちの一つとして認定され24年度～26年度6者協定リーディング事業として提案されており、佐賀大学他学部及び地域関連機関との共同研究を視野に入れて更なる活動が期待さ

れています。松尾准教授は平成 22～24 年度「重度肢体不自由児の自立移動と自律生活に関する研究」が大学推進経費研究シーズ・プロジェクトに採択され、福祉施設との協働で、障害者はじめ住民への住環境・福祉用具の導入・改善など具現化相談など発展的に活動を広げ、民間企業と「利用者の自立をサポートする次世代介護ベッドの共同開発」「高齢者車いすの共同開発」の研究課題で福祉機器の開発を進めています。平成 25 年 6 月 1 日付けで坂本麻衣子助教が 3 年の任期で堀川教授の下に赴任されました。

地域包括医療教育部門（部門長 酒見隆信教授）は、専任の酒見教授、小田准教授を中心にして、ハワイとの医学教育に関する研究交流、ハワイ大学からの学生実習受入、ハワイ大学への短期留学支援などを通じて日本の医学部、医科大学における新しい PBL 教育(problem-based learning)、日本の教育環境に合致した日本版 PBL 教育の確立、更に進化した形での TBL (Team-based learning) への展開を総合診療部と協力し、国内外に本学の先進的医療教育を発信しています。6 年一貫の継続的・段階的な臨床実習・技能訓練と学習段階に応じた問題基盤型学習を更に深化させる事が期待されています。また、「PBL/TBL における教育方法改善支援システムの構築」が高い評価を受け本学における評価反映経費の対象となりました。平成 25 年 7 月 1 日付けで福留健司准教授が配属されました。

各部門の報告は、部門長がとりまとめたものであり、それぞれの部門の特色・独自性が出ていると思われたので、統一した編集作業はおこなっていない。センター教職員一同、地域に密着した教育研究に邁進する所存ですので、ご指導とご鞭撻くださいますようお願いいたします。

本年度の地域医療科学教育研究センターの支援経費は福祉健康科学部門「地域における一般高齢者認知機能訓練教室の効果検証」と「医工商連携による身体障害者（児）の褥瘡予防器具の研究開発のためのクッションとマットレス等の各種材料の収納棚の整備事業」、地域包括医療教育部門「学生による地域住民への出前授業支援事業」にセンター部門長会議で決定しました。

医療連携システム部門
報告書

医療連携システム部門 平成 25 年度報告

1. 医療連携システム部門のスタッフ構成

専任スタッフ：

竹生政資（部門長・教授）

富永広貴（准教授）

併任スタッフ：

高崎光浩（准教授）... 医療情報部（附属病院）

一ノ瀬浩幸（教務員）... 先端医学研究推進支援センター

2. 竹生政資（部門長・教授）の活動報告

2. 1 教育活動

（1）講義など

- （1）情報基礎概論 医学科 1 年
- （2）情報基礎概論 看護学科 1 年
- （3）情報基礎演習 I 医学科 1 年
- （4）データ解析入門 履修希望者
- （5）ユニット9 PBL チューター 医学科 4 年
- （6）医学科選択コース（001 生体情報データ解析） 医学科 6 年の履修希望者
- （7）医用情報処理特論（大学院・医学修士課程）
- （8）医用統計学特論（大学院・医学修士課程）
- （9）データ処理・解析法（大学院・医学博士課程）
- （10）医療情報システム論（大学院・医学博士課程）

（2）講習会など

- （1）新規採用職員への情報セキュリティ講習会および情報システム利用講習会
- （2）看護学科編入生，大学院生の新入生への情報セキュリティ講習会および大学情報システム利用講習会

2. 2 研究活動

(1) 著書

(2) 研究論文

- (1) Models of compensatory molecular evolution: Effects of back mutation, Motoshi Ichinose, Masaru Iizuka, Junko Kusumi, Masasuke Takefu, Journal of Theoretical Biology, Vol.323, pp.1-10, 2013
- (2) The Effect of Hot Pack Treatment to Chronic Stress for the Patients, Having Stiffness of Shoulders or Lumber, Hanachiyo Nagata, Yushi Ito, Norio Akaike, Akira Honda, Masahiro Nakano, Junzo Watada, Masasuke Takefu, Takao Shindo, Toshiko Oki, Kumiko Satou, Fusako Fujii, Ayaka Hamamoto, Naokazu Iwamoto, Kayo Sakai, Tatuya Koga, Yukimitu Satou, pp.313-320, Vol.17, No.1, 2014

(3) 学会発表

- (1) The Sixth International Conference on Information, May 8 - 11, 2013, Hotel Arcadia Ichigaya, Tokyo, Japan Hosted by International Information Institute, Tokyo, Japan, INFORMATION'2013 Program Measurements of plasma DHEA-S as a possible biomarker for chronic stress in students preparing for the national license examination, Hanachiyo Nagata, Ayaka Hamamoto, Yushi Ito, Norio Akaike, Masahiro Nakano, Junzo Watada, Masasuke Takefu, Takao Shindo, Toshiko Oki, Kumiko Satou, Fusako Fujii, Naokazu Iwamoto, Tatuya Koga, Yukimitu Satou
- (2) Serum Cortisol Evaluation of Back Massage Effect for Students Having Stiffness Shoulder before the National Examination for Clinical Laboratory Technician, Hanachiyo Nagata, Junzo Watada, Masahiro Nakano, Ayaka Hamamoto, Yushi Ito, Masasuke Takefu, Takao Shindo, Akira Honda, Kumiko Satou, Fusako Fujii, Yukimitu Satou and Norio Akaike, Eighth International Conference on Innovative Computing, Information and Control (ICICIC2013), September 14-17, 2013, Kumamoto, Japan, ICICIC2013-SS13-08 (Vol.8, No.5, 2014)

(3) 学内および学外との共同研究

- (1) 九州歯科大学・飯塚勝准教授と集団遺伝学における Compensatory Molecular Evolution (互助的分子進化) に関する共同研究
- (2) 筑紫女学園大学・一ノ瀬元史教授と集団遺伝学における Compensatory Molecular

Evolution（互助的分子進化）に関する共同研究

- (3) 九州大学・楠見淳子講師（比較社会文化研究院環境変動部門）と集団遺伝学における Compensatory Molecular Evolution（互助的分子進化）に関する共同研究
- (4) 純真学園大学・永田華千代講師と母性看護学に関する共同研究

2. 3 組織運営活動

(1) 各種委員会の委員としての活動

- (1) 情報企画委員会
- (2) 総合情報基盤センター運営委員会
- (3) 総合情報基盤センター運用委員会
- (4) 地域学歴史文化研究センター運営委員会
- (5) シンクロトン光応用研究センター運営委員会
- (6) EA21委員会
- (7) 利益相反委員会

(2) 総合情報基盤センターの副センター長としての活動

総合情報基盤センターの江口技術専門職員と共同して、医学部の情報システムおよびネットワークシステムの日常的な運用・管理を行い、それ以外に以下の活動を行った。

- (1) 校舎講義棟の建物改修工事に伴い、2013年9月までに校舎講義棟内の医学サブセンターのすべての機器および物品を一時保管場所に移動し、改修工事が終わった後、2014年3月までに元の場所に復元する作業を行った。特に、講義棟以外のコンピュータネットワークは工事期間中も継続して運用する必要があるため、サーバ機器は図書館の電算室を仮設置場所として継続運用できるようにした。
- (2) 校舎講義棟の建物改修工事後にコンピュータ実習室、医学サブセンター事務室およびサーバ室が大幅に変更されることになったため、改修後のレイアウト設計を行い、天井照明変更や電子錠の変更、実習室のPCの台数増設の予定になどにも対応するように施設課や学生課などとも整を行ない、新講義棟で2014年4月から授業等が行えるようにした。
- (3) 平成15年2月末導入予定の医学サブセンター次期システムの仕様策定作業の支援を行った。

3. 富永広貴 (准教授) の活動報告

3. 1 教育活動

(1) 講義など

- (1) 基礎生命科学 (物理) 医学科 1 年
- (2) 基礎生命科学 (物理学実験) 医学科 1 年
- (3) ライフサイエンスの物理学 (基礎教養科目)
- (4) 医療統計学 医学科 1 年
- (5) ユニット 12 PBL チューター 医学科 4 年
- (6) 医用情報処理特論 (大学院・医学修士課程)
- (7) 医用統計学特論 (大学院・医学修士課程)
- (8) データ処理・解析法 (大学院・医学博士課程) 履修希望者
- (9) 医学科選択コース (002 生体情報データ解析) 履修希望者

A. 講義 (富永)

- ・ 基礎生命科学 (物理) では、自然科学の基礎である物理学を通して人類が自然をどのように理解してきたのか、自然現象は数学でどのように表現されるのかなどの自然科学的な世界観の構築を目指して講義を行っている。コンピュータ実習室を使用し、講義資料をコンピュータファイルとして配布することで、学生が手元で講義内容をいつでも閲覧できるようにして学習効率の向上を図っている。また、自作のプログラムを開発し、毎回、ランダムに座席を指定した座席表を掲示して出席率向上、学生の私語の抑制による授業中の集中度のアップをはかってきた。この手法はかなり効果があり学生の出席率は平均 95% を超えている。学生からの意見・要望・質問などは毎回授業終了時、出席確認メールにて行い、質問には次回の講義にて必ず回答している。

H23 年度から、学生の理解度を向上させるため、「ユースの装置によるヤング率測定」、「洗面器を使ったカルマン渦列発生」を始めいくつもの演示実験を行っている。今年度もいくつかの新たな演示実験を追加した。

- ・ 医療統計学では、試験とともに最後に 20 問程度のレポートを課すことで、具体的にパソコン上での統計処理を学ばせている。このレポートに関しては、今年度も「大変だが、将来の為に有益である」という旨の感想が多数寄せられた。基礎生命科学 (物理) と同様にコンピュータ実習室の特性を生かして講義開始時と終了時に電子メールにて出席をとることにより、学生の出席率は常に 95% を越えている。

B. 基礎生命科学 (物理学実験) (富永，一ノ瀬)

平成 16 年度からの新カリキュラムにおいて、基礎生命科学の実験・実習は医学科全員

もしくは半数で一斉に行なうことになり、それ以前までに行っていたような、学生を複数のグループに分けて10程度のテーマを順番に数日かけて同時に行わせるという形態を取ることができなくなったため、平成17年以降は1学年をA、B2つのクラスに分け、他の講座の実習と1日交代で、以下の3つの実験テーマを1題目につき2日間で行っている。

(1)単振り子による重力加速度の測定

単振り子の振動周期を測定することで、佐賀大学医学部での重力加速度を測定する。簡単な機材のみを使っても、丁寧な実験をすることで相対誤差1%以内という高い精度で測定ができることを実際に体験させる。また単に重力加速度を測定することが目的ではなく、実習を通じて基本的な測定器の使い方、データの取り方・まとめ方、誤差評価の仕方、レポートのまとめ方といった、実験全般に通じる基本的な事柄を習得させることを目的としている。

(2)電気・電子回路の実験

電気回路の基本的な測定器であるテスターの使い方をマスターし、代表的な電子部品の働きを理解する。さらに実際にデジタル回路や発振回路を作成してその基礎を学び、オシロスコープの基本操作を学ぶ。また人体の電気抵抗や、家庭用電源の電圧、周波数も測定し、医療分野は言うまでもなく日常生活にあふれている様々な電気・電子機器に対する理解を深めることを目的としている。

(3)光学の実験

「光学の実験」では、以下のような内容の実習を行った。

- ・ 組み合わせレンズの働きを理解し、望遠鏡、顕微鏡の原理を学ぶ。
- ・ 単凸レンズの焦点距離を求めてその働きを理解し、人体の眼球やカメラの原理を学ぶ。
- ・ 単凹レンズの焦点距離を求めて、その働きと原理を学ぶ。
- ・ 溶液の濃度の違いによる屈折率の違いを理解し、屈折率計の原理を学ぶ。

学生のアンケートでも実習に対する評価はおおむね好評であり、特に高校までの教育課程で実験実習に慣れ親しんだことのない学生が多く、有益であったという感想が多く寄せられた。

3.2 研究活動

今年度は、「カオスによる輸送現象の研究」に加えて、新たなテーマの研究「加振されたボルトナット系の現象論的モデルの研究」を開始した。

【学会発表】

1	富永広貴,宮崎修次	加振されたボルトに取り付けられたナットの運動に関する現象論的モデル- 二次元周期外力系における弾道的運動とカオスの拡散 -	電子情報通信学会非線形問題研究会	2013,5,27	信学技報,NLP2013-17,pp43-46
2	富永広貴,宮崎修次	加振されたボルトに取り付けられたナットの運動に関する現象論- 二次元周期外力系における弾道的運動とカオスの拡散 -	日本物理学会2013年秋季大会	2013,9,25-28	日本物理学会講演概要集,第68巻,第2号,p272
3	富永広貴	少数自由度カオス力学系の記憶関数の構造	日本物理学会2013年秋季大会	2013,9,25-28	日本物理学会講演概要集,第68巻,第2号,p273
4	富永広貴,宮崎修次	加振されたボルト・ナット系の現象論的モデル	第119回日本物理学会九州支部例会	2013,11,30	E-14
5	富永広貴,宮崎修次	加振されたボルト・ナット系の現象論的モデルの分岐	研究集会「力学系・振動子系・非一様性」	2014,3,17	
6	富永広貴,宮崎修次	加振されたボルトに取り付けられたナットの運動に関する現象論的モデルII	日本物理学会第69回年次大会	2014,3,28	日本物理学会講演概要集,第69巻,第1号,p318

以下に、研究集会「力学系・振動子系・非一様性」にて発表したポスターを添付する。



加振されたボルト・ナット系の現象論的モデルの分岐

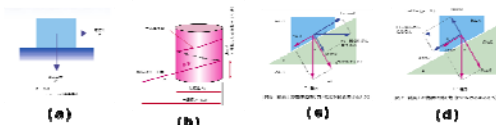
Bifurcations of Phenomenological models of turning motion of a nut attached to a vibrationally-stimulated bolt

宮本広典, 高野裕典
 G. Tanihara, Y. Takayama
 佐賀大学 理学部 / Saga Univ. Dept. Phys.
 hirota@cc.saga-u.ac.jp

1. はじめに

- おじ、ボルト、ナットで振動された機械部品（振動）【工学的現実性】
- NKG「おじ」ガッテン！ボルトとナットに電磁音ブラシ→同一方向に運動（おじの方より、逆方向の運動）
- おじの動きよくわかっていない
- おじの基本は摩擦
- トライボロジー（Tribology）摩擦、潤滑、潤滑の現象や潤滑剤の存在
 ⇒カオスやフラクタルとの関連で研究されている
- その他、
 - 振動場で土壌を掘削→土質の不均質運動
 - たわしに摩擦体を結びつけたものの不均質運動⇒カオス振動（決定論的振動）

2. おじの基本



$\tan\phi = \mu$ (μ : 斜面と物体との摩擦係数)

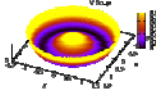
3. 現象論的モデル

- モデル振動の力の安定**
- 理想的には、おじの位置は一意に斜面に接している
 - 物理的には、おじも斜面も不規則な形状→コンタクトポイント（曲面と斜面が最も深く接触）
 - 加振時、コンタクトポイントがランダムウォークのように運動
 - コンタクトポイントに働く力は、何らかのポテンシャルからと仮定→時間的な振動現象も導くと仮定
- 現象論的2次元ポテンシャル**

$$V(X, Y, t) = V_0(X, Y) + A \cos \Omega t (\sin \alpha - x)$$

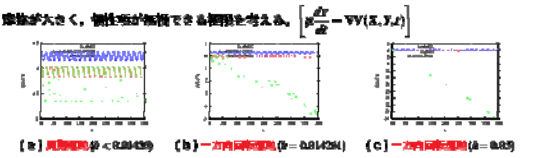
$$V_0(X, Y) = \frac{1}{2} (1 - (X^2 + Y^2))^2 - \frac{a}{2} (X^2 - Y^2)$$

$$V_0(r, \theta) = \frac{1}{2} (1 - r^2)^2 - \frac{a}{2} r^2 \cos 2\theta$$

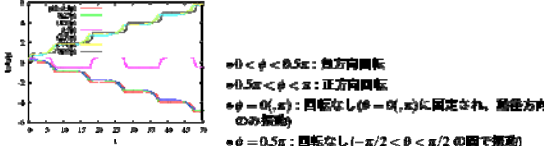


- 運動方程式**
- $$m \frac{d^2 \mathbf{r}}{dt^2} = -\nabla V(X, Y, t) - \beta \frac{d\mathbf{r}}{dt}$$
- a ($= 0.01$): 回転方向のポテンシャルの形を決める parameter
 - A, Ω ($= 0.1$): 振動外力の振幅, 角振動数
 - α ($= 0.0$): 振動外力の方向の単位ベクトル \mathbf{e} で表す
 - β ($= 0.0$): 摩擦係数
 - $\mathbf{r} = (X, Y) = (r, \theta)$

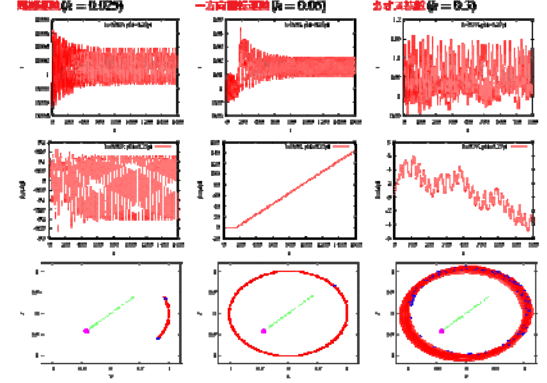
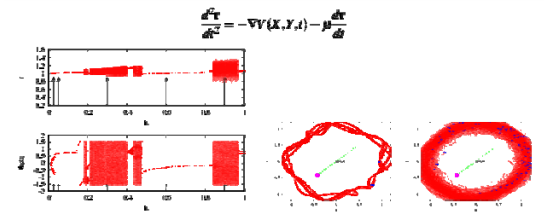
4. 慣性項を無視した極限の運動



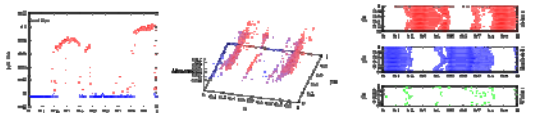
回転方向 ϕ と (回転) 運動方向 θ ($\phi = 0.05, 0 \leq \phi \leq \pi$)



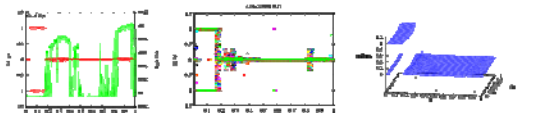
5. 運動形態（時系列と分岐図; $\phi = 0.25\pi$)



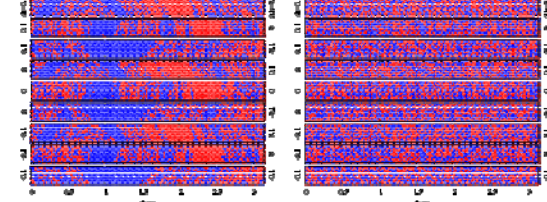
6. Lyapunov exponent



7. Rotation number



回転角による回転方向の変化 (回転 $\phi = 0 \sim \pi$, 摩擦 $\beta = 0.50 \sim 1.05$; $\alpha = \pi$, $\beta = 0$)



8. まとめ

- 加振されたボルトとナットの現象論的モデル方程式を導入し、数値計算により運動形態のパラメータによる変化を調べた。
- 慣性項を無視しない場合は、カオス振動も現れることがわかった。
- 慣性項を無視した極限では、同一方向回転運動は回転する方向によって、正負の回転が決まるが、そのような振動を取らない場合、回転方向は回転方向よりもむしろ初期値に依存して変化することがわかった。(multi basin/fractal basin boundary?)

References

[1] トライボロジスト, 40巻7号, 特集「新しい物理学とトライボロジーの接点」(1995) pp.521-583.
 [2] <http://www9.nhk.or.jp/gatten/archives/E20100512.html>
 [3] 米谷俊一, 「おじ結合と摩擦係数」(コンポーネント技術 特集), Yamaha motor technical review, 2004
 [4] 吉藤光雄, 京大大学院理学研究科修士論文, 平成25年3月.
 [5] H. Tani and Y. Hooshino, Phys. Rev. E, 84 (2011), 061119.
 [6] G. Zumofen and J. Klafter, Phys. Rev. E 47 (1993), 851.

3.3 学内支援業務

- ・ C B T (Computer Based Test) 実施支援 (富永,一ノ瀬)

医学教育の支援業務として、当部門の富永は、医学部共用試験の一部である CBT のサイトマネージャとして、一ノ瀬はその補助として、試験実施のためのコンピュータシステムの準備、試験実施時のシステムの管理及びトラブル対処、試験後のデータの抽出及び共用試験実施機構へのデータ送付を担当した。平成 25 年度はコンピュータ実習室が講義棟耐震工事のため使用できず、附属図書館にて 3 回に分けて実施した。3 回に分けて行なった大学は無いということで、システムチェックを事前に入念に行った甲斐あって、今年度も前年同様システム上のトラブルは起こらず無事試験を終了することができた。実施機構から派遣されたモニター委員の方からは、3 日間という状況でも何ら問題なく厳正に実施されたと高評価をいただいた。

3.4 組織運営活動

1. 附属図書館医学分館運営委員会
2. 入試関連委員会 (2 委員会)
3. 全学共有自学自習システム専門委員会
4. Open Campus 医学科紹介

4. 高崎光浩（准教授）の活動報告

4. 1 教育活動

(1) 講義など

- (1) 看護統計学（看護学科）
- (2) プレゼンテーション技法（看護学科）
- (3) web 表現（デジタル表現技術養成プログラム；主題）
- (4) プログラミング表現（デジタル表現技術養成プログラム；主題）
- (5) 地域医療科学特論（大学院）
- (6) 医用情報処理特論（大学院）
- (7) 医療科学研究法（大学院）
- (8) 医療科学研究実習（大学院）
- (9) プレゼンテーション技法（大学院）
- (10) 情報リテラシー（大学院）

(2) 学外非常勤講師等

- 情報科学1（佐賀県立総合看護学院 看護学科1年）
保健統計学（佐賀県立総合看護学院 保健学科1年）
情報科学2（武雄看護リハビリテーション学校 看護学科2年）
長崎県看護協会認定看護管理者制度ファーストレベル 看護情報学

(工夫している点)

学部生を対象とした科目、(1)看護統計学、(2)プレゼンテーション技法、(3)web 表現、(4)プログラミング表現は講義とそれに関連した PC 演習を併用して実施している。各演習では、操作法などの詳細な説明などが必要なため、スクリーンに投影してもよく見えないので、e ラーニング学習管理システム(LMS: Learning Management System)に資料を掲載して、各自の PC で閲覧できるようにしている。また、データ入力などに時間を割いてしまうと本来の目的が達成できないので、例題はすべてデータ入力が完了した状態でダウンロードできるようにしている。

授業中に行った課題の提出も LMS でオンラインで行っているが、各学生の理解度確認を目的とした課題は送信した学生と教員だけが参照できるファイル送信機能を使用し、ほかの学生の課題をお互いに参照する必要がある課題はフォーラム機能を使用するなど、目的に応じて行うことにより、教育効果の改善を目指している。

LMS に掲載した講義資料には学生自身がオンラインでメモを書き込めるようにしており、予習時に不明な点をメモしておいたり、授業中に説明を聞きながら重要な点を書き足したりできるようにしている。また、講義資料に学生が書き込んだがメモを付与した状態で pdf ファイルが生成できるようになっているので、従来の配布資料（パワーポイント等の縮小印刷物）よりも使いやすい資料が提供できる。さらに、教員は資料のページ毎に学生がどのようなメモを記入しているか一覧で確認できるようにしているので、学生がどこがわからないかと思っているのか、教員が強調したことが伝わっているかなどを確認し、資料の改編や指導法の改善などに活用している。

4. 2 研究活動

ICTを活用したがん登録システムの構築に関する研究

佐賀県におけるがん患者数は、国立がん研究センター研究班による推定値が約 5,500 人であるのに対し、佐賀県が把握している推計罹患者数は 4,500 人であり、計算上約 1,000 名のがん患者が未把握という状況である。

登録数に関しては、医療機関ごとの届出の協力体制や調査に対する理解の相違などの要因により施設差が生じている。届出率の高いがん診療連携拠点病院においても、がん登録実務における作業負担（収集データのシステム分散を主因）が大きく、情報通信技術(ICT)等の活用による改善が必要である。さらに、死亡調査票からの関係医療機関に対する遡り調査に協力が得られない場合があり、予後調査の精度に影響が生じている。

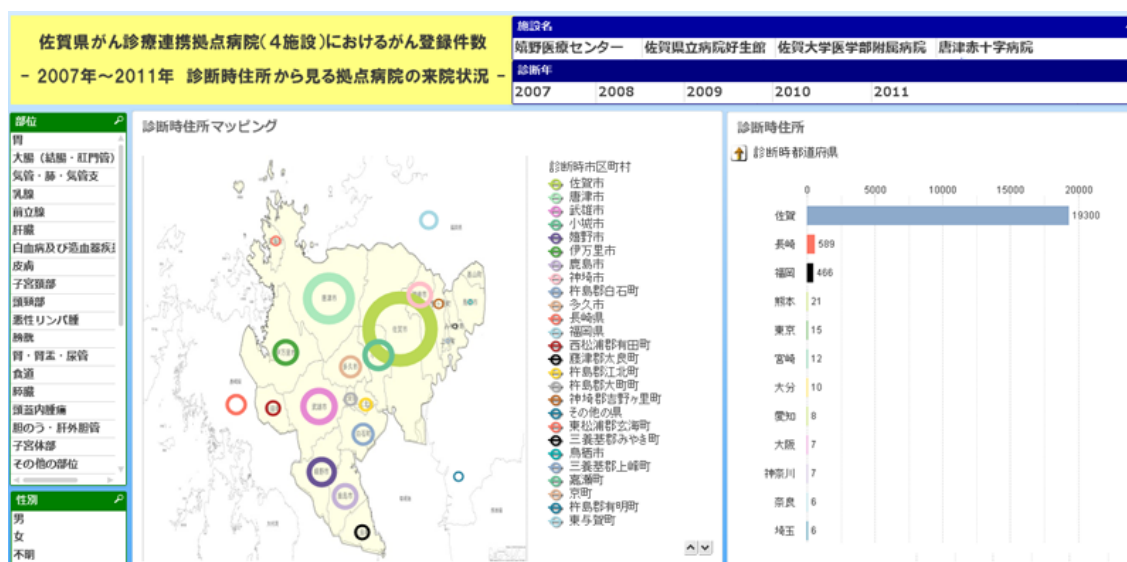
がん診療連携拠点病院においては、電子カルテシステムやオーダーリングシステム等の診療支援情報システムが稼働しているため、がん登録に必要な情報についても多くが電子的に保存されているにもかかわらず、届け出に必要な情報の元になるデータの格納場所が、検査部門システムであったり、病理部門システムであったりと分散しており、それらのシステムから網羅的かつ自動的にデータを収集する仕組みは存在していないため、たとえ電子カルテシステムが導入されていても多くの操作が必要であり、実務者の業務負担はきわめて大きい。

このような背景に基づき、がん見つけ出しに病院情報システムのデータを活用できるシステムを整備することは、実務者の業務負担軽減になるだけでなく、登録漏れの軽減や登録データの質の向上に繋がり、結果として佐賀県のがん登録全体の改善に繋がると考え、平成 22 年度より佐賀県の受託研究として実施してきた。

平成 22 年度は、国立がん研究センター院内がん登録室が提供している Hos-CanR および CaseFinder を導入し、佐賀大学医学部附属病院のデータウェアハウスシステム (HOPE/DWH) と連携させるインタフェースを開発した。

Hos-CanR、CaseFinder を選択した理由は、国立がん研究センターで実際に利用されているシステムであること、運用・維持コストがリーズナブルであること、システム比較検討の時点で、300 施設以上で実際に導入されていること、実務者の要望が仕様改訂に反映されやすい点などである。

上記システムの導入により、院内がん登録実務におけるがん症例見つけ出しの効率を向上させ、フィルタリング機能の検証と改善を繰り返すことにより、検出精度を改善することができた。



BI ツールを用いた院内がん登録データの分析例

【論文】

1. 古川 尚子, 河口 康典, 大枝 敏, 泉 夏美, 江口 仁, 水田 敏彦, 藤井 進, 高崎 光浩 他: 大学病院の非肝臓内科における HBs 抗原および HCV 抗体陽性者に対する肝疾患診療の実態 肝臓 54(5): 307-316, 2013.
2. 相良 かおる, 小野 正子, 小作 浩美, 鈴木 隆弘, 高崎 光浩, 嶋田 元: 分かち書き用辞書 ComeJisyo の評価 医療情報学 32(6): 301-307, 2013.

【学会発表】

1. 志波 孝治, 藤井 進, 高崎 光浩, 森田 茂樹: 大腸癌ステージ 1~3 で治癒切除後の腫瘍マーカー検査実施間隔のばらつきの影響 日本医療マネジメント学会雑誌 14:Suppl. 324, 2013. 06.
2. 古賀崇朗, 永溪晃二, 田口知子, 河道 威, 米満 潔, 久家淳子, 時井由花, 田代雅美, 福崎優子, 中村隆敏, 角 和博, 高崎光浩 他: 学生の可能性を拓く佐賀大学コンテンツデザインコンテスト, PC カンファレンス 2013 抄録集 277-278, 2013. 08.
3. 古賀崇朗, 藤井俊子, 田代雅美, 米満 潔, 河道 威, 永溪晃二, 久家淳子, 時井由花, 田口知子, 高崎光浩 他: デジタル表現技術者養成プログラムにおける修了研究の評価方法の検討, 日本リメディアル教育学会全国大会, 抄録集 136-137, 2013. 08.
4. Suzuki Takahiro, Doi Shunsuke, Fujita Shinsuke, Hatakeyama Yutaka, Honda Masayuki, Matsumura Yasushi, Shimada Gen, Takasaki Mitsuhiro et al: Construction of the Integrated Multicentre Discharge Summary Database. MEDINFO Proceeding 1064, 2013.08.
5. 古賀崇朗, 中村隆敏, 高崎光浩 他: デジタル表現技術者養成プログラムの修了研究におけるデジタルコンテンツ制作の実践, 2013 九州 PC カンファレンス, 抄録集 15-16, 2013. 11.
6. 田口知子, 古賀崇朗, 永溪晃二, 河道 威, 梅崎卓哉, 中村隆敏, 角 和博, 高崎光浩 他: 佐賀大学コンテンツデザインコンテストの展開, 2013 九州 PC カンファレンス, 抄録集 25-26, 2013. 11.

7. 鈴木 隆弘, 土井 俊祐, 本多 正幸, 嶋田 元, 高崎 光浩 他: テキストマイニングによる退院サマリーの多施設間クロスマッチ比較 医療情報学連合大会論文集, 940-943, 2013. 11.

4. 3 組織運営活動

(併任)

- 全学教育機構 准教授 (併任)
- 医学部地域医療科学教育研究センター 准教授 (兼担)
- 医学部附属病院画像情報処理サービスセンター 副センター長
- " 動作解析・移動支援開発センター 副センター長
- " 地域医療支援センター 副センター長

(各種委員会委員等)

- 佐賀県診療情報地域連携システム協議会
- 佐賀県診療情報地域連携システム実務担当者会議
- 国立大学法人佐賀大学情報企画委員会
- 国立大学法人佐賀大学情報公開・個人情報保護委員会
- 佐賀大学総合情報基盤センター運営委員会
- 佐賀大学総合情報基盤センター運用委員会
- 佐賀大学高等教育開発センター運営委員会
- 佐賀大学医学部附属病院医療情報部委員会
- 佐賀大学医学部附属病院広報委員会
- 佐賀大学医学部附属病院広報誌編集委員会
- 佐賀大学医学部附属病院地域連携室運営委員会
- 佐賀大学医学部附属病院地域医療支援センター運営委員会
- 佐賀大学医学部附属病院画像情報処理サービスセンター運営委員会
- 佐賀大学医学部附属病院動作解析・移動支援開発センター運営委員会

5. 一ノ瀬浩幸 (教務員) の活動報告 (医療連携システム部門における分のみ)

5. 1 教育活動支援

- (1) 情報基礎概論 (医学科 1 年) アシスタント
- (2) 情報基礎演習 I (医学科 1 年) アシスタント
- (3) 基礎生命科学 (物理) (医学科 1 年) アシスタント
- (4) 医療統計学 (医学科 1 年) アシスタント
- (5) 基礎生命科学 (物理学実験) (医学科 1 年) 指導
- (6) 情報基礎概論 (看護学科 1 年) アシスタント

5. 2 学内支援業務

CBT (Computer Based Test) 実施支援 (富永,一ノ瀬)

医学教育の支援業務として、医学部共用試験の一部である CBT のサブサイトマネージャを担当した。平成 25 年度はコンピュータ実習室が講義棟耐震工事のため使用できなかったため、附属図書館にて 3 回 (3 日間) に分けて実施したが、特にシステム上のトラブルはなく、無事試験を終了した。

福祉健康科学部門
報告書

地域医療科学教育研究センター 認知神経心理学分野
活動報告 平成 25 年度

教授 堀川悦夫
助教 坂本麻衣子
日本学術振興会特別研究員 大島千佳
技術補佐員 北島かおり 木場勉

<H25 年度 人事>

- 1) 助教として坂本麻衣子博士が赴任されました。

<H25 年度 実施状況 概要>

- 1) 高齢社会の我が国において解決すべき問題の一つである、移動（モビリティ）の保証に関して、従来の運転適性検査に加えて、運転リハビリテーションを開始することができ、先駆的な試みとなった。
- 2) 運転適性の脳機能からの評価方法として近赤外光脳機能計と運転シミュレータのインターフェースを開発し、運転時の脳機能解析が可能となった。
- 3) 脳卒中後遺症患者に多く見られる半側空間無視をよりの確に評価するため、視野欠損の検出及び眼球運動測定システムを構築することができ、残存機能やリハビリテーションの手法選択や評価をより適切に行うことが可能になった。
- 4) 附属病院での共同研究を推進し、高次脳機能障害や患者家族支援を行うことができた。

<関連する成果>

- 1) 農学部アグリ創生センターと医学部の共同提案として概算要求案「アグリセラピー開発」として提案することができた。
- 2) 本年度の研究の中で、アグリセンターにおいて、日常生活条件下（ユビキタス化）や移動中（モバイル）に測定を行うことが可能になったことから、実験室外のデータ取得を行うことで、地域医療やアグリセンターでの研究実践活動に応用していくことが可能となった。

<受賞>

- 1) 助教坂本麻衣子博士が、米国の神経心理学会（NAN）の大変栄誉のある賞を受賞されました。
Tony Wong Diversity Award for outstanding work related to diversity as a Post Doc or Early Career professional.
National Academy of Neuropsychology Culture & Diversity Committee

1) もやもや病 高次脳機能包括的調査

松島 淳¹, 井上 浩平², 堀川 悦夫³, 松島 俊夫²
¹佐賀大学医学部精神神経科, ²佐賀大学医学部脳神経外科,
³佐賀大学医学部地域医療科学教育研究センター

【はじめに】

もやもや病における高次脳機能障害に関し、症例報告がみられるものの、竹田ら(1989)のもやもや病児の社会適応調査以来、大規模調査は実施されておらず、もやもや病患者が実生活において抱えている問題や障害の実態は明らかになっていない。一方、生活上に問題や障害を抱えながらも高次脳機能障害として医療・社会的支援サービスを得られていない人々も存在する。

今回、もやもや病患者の生活状況や生活上における具体的な問題を明らかにすることを目的として質問紙調査を実施した。

対象者

九州地区を中心に300名以上に発送、すでに約半数が回答
全国多施設共同研究プロジェクト COSMO-JAPANにも参画

【方 法】

対象： 佐賀大学附属病院に通院加療中のもやもや病患者182名、もやもや病家族の会九州支部患者131名 計313名

項目： 対象者属性、利用している支援サービス、病態、記憶障害や注意障害、遂行機能障害など認知機能や生活上の問題に関して調査した。調査は対象者から書面による同意を得て実施。

<調査内容>

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. 医療情報 | 7. 理解力、 |
| 2. 日常生活能力 | 8. 感情・意欲、 |
| 3. 記憶言語注意 | 9. 学習、感覚 |
| 4. 集中力、 | 10. 運動、対人関係 |
| 5. 遂行機能、 | 11. 社会適応、 |
| 6. 生活機能、 | 12. 個人的長所、特徴 |

【結果と考察】

157名から回答が得られ回答率は50.2%であった。また、食事や整容、入浴といった種々の日常生活能力(ADL)に関しては9割前後が自立しているにも関わらず、4割以上に記憶障害(「すぐに忘れてたり新しいことが覚えられない」43.3%)や注意障害(「2つのことを同時にできなかつたり混乱する」50.3%)、遂行機能障害(「物を管理できなかつたり整理整頓できない」40.8%)などを抱えていることが分かった。さらに、実際に高次脳機能障害と診断されているのは26名(16.6%)にとどまっており、多くのもやもや病患者が生活上の問題を抱えているにも関わらず高次脳機能障害として支援サービスを十分には得られていない可能性が示唆された。なお、発表当日は分析結果の詳細を報告し考察を加えたい。

【結 語】

多くのもやもや病患者が生活上の問題を抱えているにも関わらず高次脳機能障害として支援サービスを十分には得られていない

2) もやもや病の脳神経画像データベースの構築と症状との関連の分析

「もやもや病の臨床症候とMRI画像所見の対比」

光武 里織（神経内科）・野口 智幸（放射線科）

もやもや病とは、頭蓋内動脈枝が慢性に狭窄閉塞し、様々な脳血管障害を来す特発性の疾患である。稀な疾患ではあるが日本人に多く、原因不明であり、緩徐進行性であることから、一生の医療的経過観察と加療が必要な疾患である。

もやもや病の臨床症候は、これまでの分類として、一過性虚血性発作（TIA）、梗塞、出血、てんかんの、大きく4分類で検討されてきたが、実際には、頭痛などの軽症から、高次脳機能障害などの機能上の重度な障害まで多種多岐にわたり、これらのより詳細な臨床的検討はなされていない。

一方、MRIはもやもや病の診断及び経過観察として通常の臨床検査として大変有用である。具体的には、T1強調像、T2強調像、FLAIR像等の異なるコントラストを示す画像を複数比較することにより、さまざまな病変をより特異的な病態として特定することが可能である。またMRIの1つの画像手法であるMRアンギオグラフィ(MRA)では、非侵襲性に頭蓋内の動脈枝を描出することができ、血管の狭窄閉塞の程度を詳細に判定することが可能である。

これらの所見は、客観的臨床情報として、診断および経過観察において大いに活用されているが、臨床症候との関連性を包括的に検討されてはいない。

そこで今回我々は、150超症例のもやもや病に対し、より詳細な臨床症候とMRI所見を対比することにより、主観的な臨床症状と客観的な画像所見の関連性を明らかにし、治療方針の決定における有機的な診療情報を提供する基礎的研究を目指している。

全体計画

- 1) データベース構築のための大サンプル研究
- 2) データ解析のための機器等を整備
- 3) 画像解析と症状などのデータベースを構築
- 4) 共通テーマにもとづく講演会、シンポジウム開催

【対象】

症例：もやもや病と診断された152例 男性：50例、女性：102例、
検査時年齢：3-76歳（28.1±16.8） 発症年齢：1-75歳（19.2±18.0）
手術歴：片側5例、両側8例、なし139例
家族歴：あり30例、なし122例
期間：2006年9月～2011年7月 3テスラMRI装置にて撮影

【方法1：臨床所見】

診療録より臨床症候及び疫学的所見を抽出

臨床症候：以下の11項目に分類した。

- ①頭痛、②一過性脳虚血発作、③運動障害、④不随意運動、⑤感覚障害、⑥痙攣、
⑦眼症状、⑧高次脳機能障害、⑨精神症状、⑩膀胱直腸障害、⑪その他

疫学的所見：以下の4項目を抽出した。

①年齢、②性別、③初発年齢、④血行再建術の有無

【方法2：画像所見*1】

画像所見：以下の4項目をスコア化した

●MRアンギオグラフィ

- ①脳血管狭窄度： MRAスコア
- ②脳底部もや血管増生度： BMVスコア

●FLAIR像：

- ③”ivy sign”の描出度： Ivyスコア
- ④脳血管障害病変サイズ： CVAスコア

【結果1】

	頭痛	TIA	運動障害	不随意運動	感覚障害	痙攣	眼症状	高次脳機能障害	精神症状	膀胱直腸障害
回帰係数	P<0.01	P<0.05	p=0.61	P<0.01	p=0.21	P<0.01	P<0.01	P<0.01	p=0.16	P<0.01
年齢				若年 (p<0.05)						
性別						男性 (p<0.05)				
発症年齢	若年 (p<0.01)									
手術の有無				無 (p<0.01)						無 (p<0.05)
MRA score (血管狭窄度)								重度 (p<0.05)		
Ivy Score (血管予備能)						保持 (p<0.01)				
CVA score (陳旧性脳血管病変範囲)							広範囲 (p<0.05)	広範囲 (p<0.05)		
BMV Score (もや血管増生の程度)				不足 (p<0.01)		不足 (p<0.01)				不足 (p<0.05)

現在、症例を増やし投稿論文作成を行っている。(担当 光武里織 指導 野口智幸)

3) 歩行及び動作の無拘束計測による研究

歩行動作およびフォースプレート分析のデータベース化促進

1) 整形外科を中心とする人工関節置換術患者の術前後評価 192例

これまで、データベース入力数 のべ 2,000名を越える
 各患者平均4試行 × 解析対象最低三步 × 両足 > 48,000
 正にビッグデータ

2) 神経内科
 正常圧水頭症患者のタップテスト前後の歩容変化の検出 15例

3) 脳神経外科
 二分脊椎患者の手術前後の歩容変化の検出 3例

4) 先進総合機能回復センター
 脳卒中後遺症などの患者のロボットリハの効果検証 5例

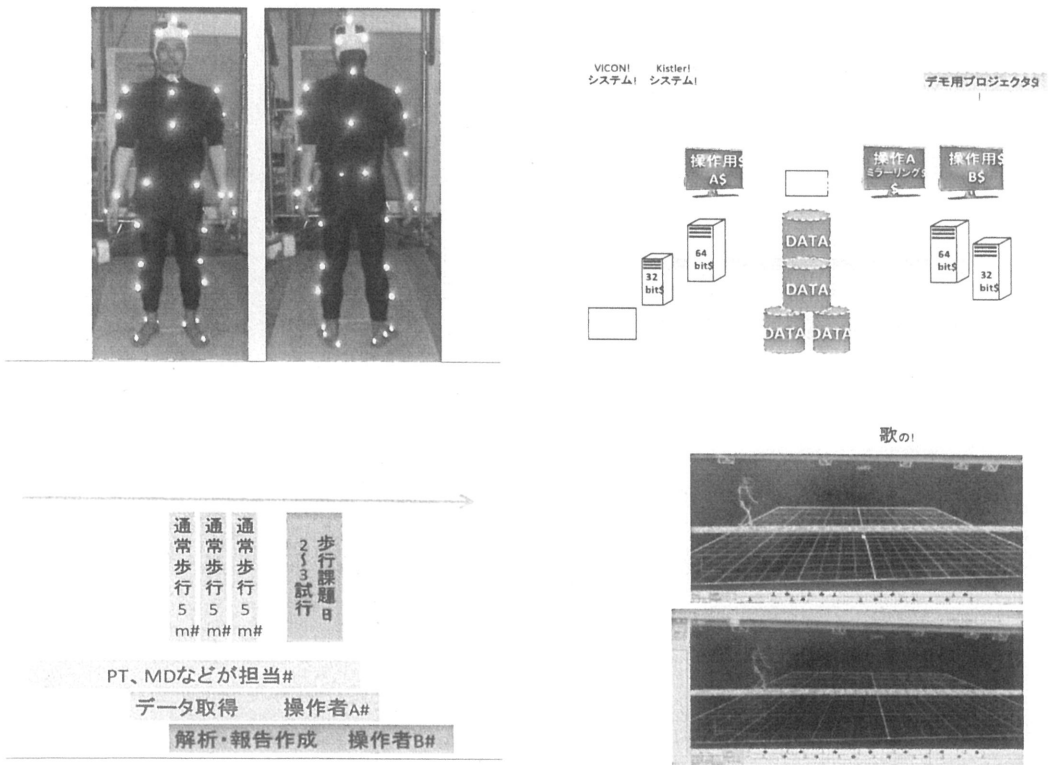


図 測定システム概要

改良箇所

- a) 術前と当日の数値比較結果の報告書の様式作成
- b) 解析の自動化のためのパイプライン処理の見直し
- c) フィルタリング
- d) 隠れマーカー補間処理

- e) フォースプレートによる足跡検出
- f) 歩行パラメータ算出 など
- g) 解析結果の貼付け用マクロ作成
- h) 術前と当日の線画による説明の様式作成

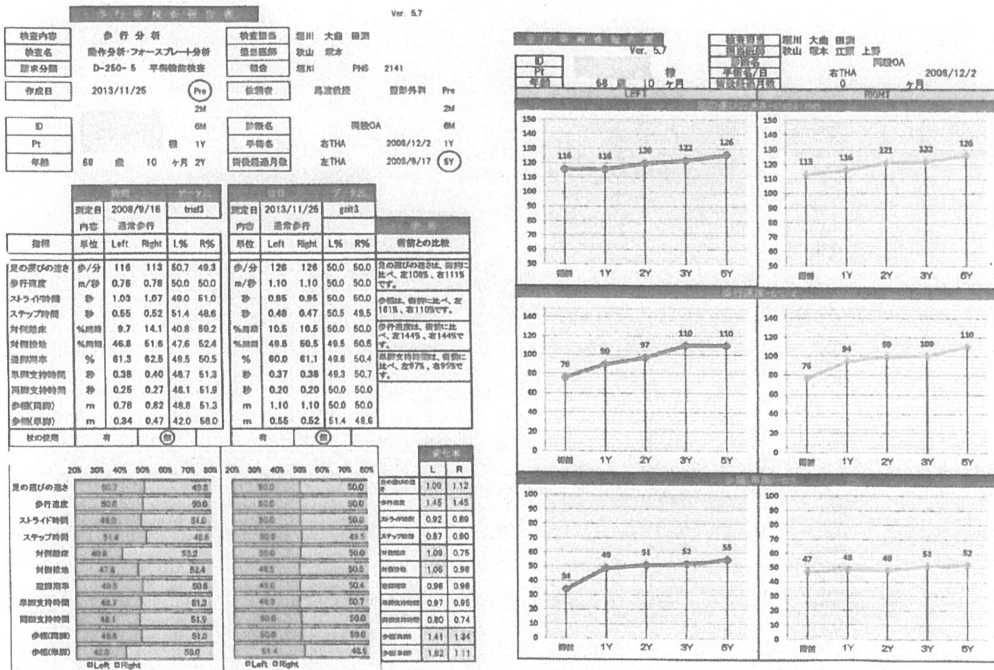
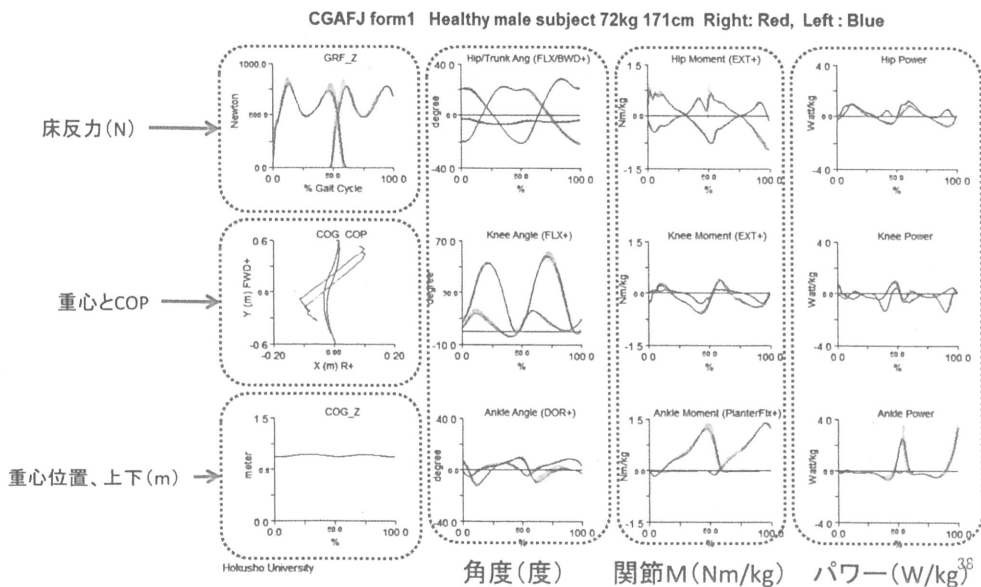


図 測定レポートの例 (左 即時レポート 右 時系列解析)

より詳細な解析が可能になるように解析システムの改良
臨床バイオメカニズムへの展開



今後は、運動力学的解析や疾患群別の歩行分析を行っていく予定である。

4) ロボットスーツHAL使用における心理面への効果に関する検討

佐賀大学医学部附属病院 先進総合機能回復センター・リハビリテーション科
佐賀県医療センター好生館 リハビリテーション科²
○北島昌輝、南里悠介、溝口恵、浅見豊子、山之内直也²

【方法】 脳卒中後遺症患者にボツリヌス療法施行後、HALを用いたリハを週1回、6週実施した。歩行評価は10m歩行時間、Timed Up & Go test (以下TUG) を用い、

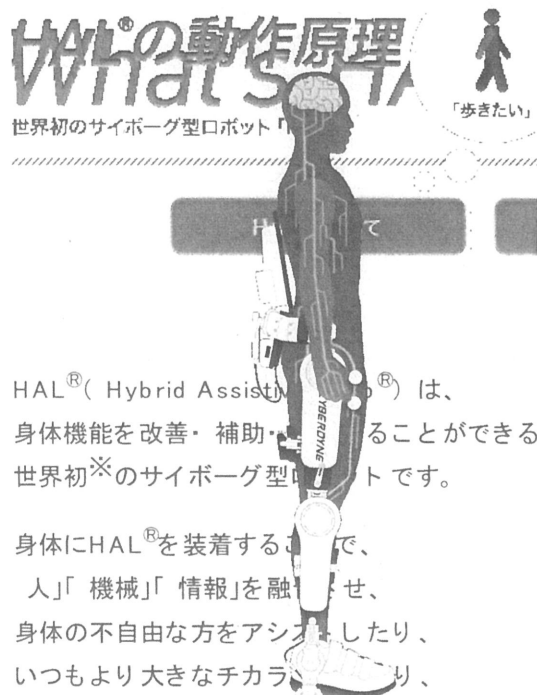


図 サイバーダイナミクス社HPより

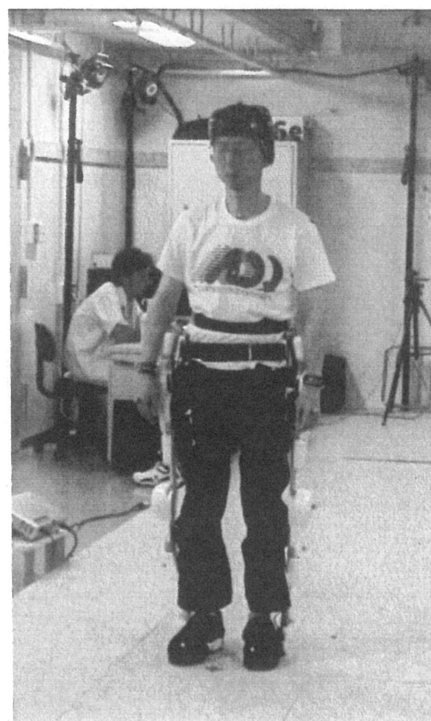


図 装着例

ボツリヌス療法前後、HAL導入後2・3・4・5・6週目に調査した。気分の評価はProfile of Mood States (以下POMS) を用い、HAL導入前、導入後1・6週目リハ終了後調査。

【症例提示】 0F,右放線冠に脳梗塞発症後3年10ヵ月の左片麻痺 (Br. StageIV-IV-III ~IV)。ADLはBI 90点、FIM 109点。AFO装着T字杖歩行自立。ボツリヌス療法を左下肢に300単位施行

【結果】 ボツリヌス療法とHAL導入後3・6週目で、10m歩行は28.1秒から23.9秒、TUGは30.0秒から24.8秒と改善。また、HAL導入後1週目の POMSでは、特に活気、抑うつ-落ち込み、緊張-不安、疲労の変化が大きかった。ボツリヌス療法とHALの併用療法により、歩行評価のみならず心理面での改善がみられた。

5) 運転適性検査及び運転リハビリテーションの進展

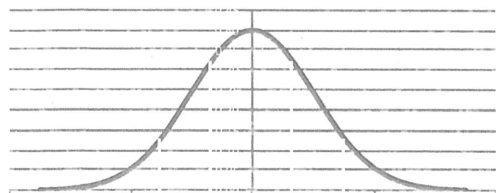
① 高次脳機能検査 + 運転適性検査

<対象患者> 認知症、MCI、高次脳機能障害、脳卒中後遺症ほか
<件数> 2013年4月から2014年1月 のべ 30名 47試行



図 可搬型運転シミュレータによる検査

佐賀大学病院では電子カルテからオーダー可



23

図 大学病院での運転シミュレータによる検査

②シミュレータによる運転リハビリテーション

<対象患者> 認知症、MCI、高次脳機能障害、脳卒中後遺症ほか
<件数> 2013年4月から2014年1月 のべ 33名
246試行 平均 7.5試行/回
これまでの運転適性評価人数 のべ 500名

③ 半側空間無視患者の詳細な視覚機能及び視野評価

<対象患者> 高次脳機能障害、脳卒中後遺症ほか
ゴールドマン型視野計導入により詳細な評価の開始が可能となった

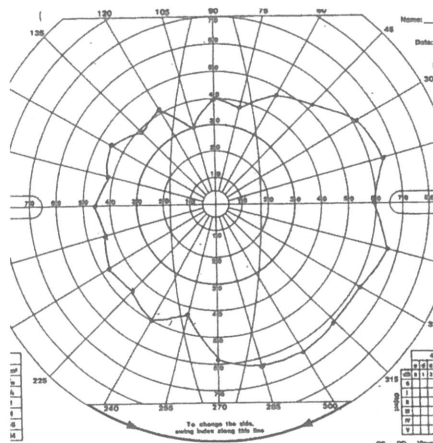


図 運転免許可否判断に求められた視野欠損の例

④実証的運転行動評価 の システム化の提案

<対象患者> 認知症、MCI、高次脳機能障害、脳卒中後遺症ほか

認知機能検査 + 運転シミュレータ検査 +
自動車学校所内検定 + 一般路上運転行動評価

そして 日常的運転行動と車両挙動測定
更に、個人の状況に合わせた 移動行動支援システム
Mobility Assessment & Support System : MASS の構築

6) 高次脳機能障害シンポジウム開催（患者会ぷらむ佐賀と共同開催）

高次脳機能障害患者家族会 ぷらむ佐賀 / 佐賀大学ヒューマンケア科学研究所 共同企画

高次脳機能障害者支援 講演・シンポジウム

— 実践的支援をめざして —

日時 2013年12月15日(日) 13:00~17:00

場所 佐賀大学医学部 看護学科 5101教室

Program

第1部 講演会【主催：高次脳機能障害患者家族会 ぷらむ佐賀「地域いきいきさがふれあい基金」助成】

13:10~講演

「心のバリアフリーを目指して」 — 高次脳機能障害を経験した専門家からの提言 —

講師：『「話せない」といえるまで 言語聴覚士を襲った高次脳機能障害』医学書院 著者
神戸大学大学院客員教授 関 啓子 先生

14:30 質疑応答
14:50 休憩

第2部 シンポジウム【主催：佐賀大学ヒューマンケア科学研究所】

15:05 佐賀県における障害者就労支援体制の概要
佐賀県障害者就労支援室

15:25 佐賀における就労支援事例とその問題点1
NPO法人 ステップワーカーズ

15:50 佐賀における就労支援事例とその問題点2
アイエスエフネットライフ佐賀

16:05 休憩と質問カード回収
16:15 全体討論
17:00 終了予定



お問い合わせ先 高次脳機能障害患者家族会 ぷらむ佐賀 TEL:080-5276-2020
佐賀大学医学部 堀川 悦夫 TEL:0952-34-2141 E-mail: ethori@med.saga-u.ac.jp

言語聴覚士であり脳卒中により高次脳機能障害者としてリハビリテーションの経験を有するという研究者を招き、実践的支援について講演を行ってもらい、併せて佐賀県の障がい者就労支援の実状についてシンポジウムを開催した。

これまで患者の実践的支援の立場からの講演会が少ない中、多くの参加者を得て好評であった。

7) これからの研究計画 (全般的視点から)

(今後どのような計画で研究を進めるか)

- 1) もやもや病や人工股関節置換術患者など佐賀大学が拠点となっている疾患について臨床研究を充実させる
- 2) 医療機関と患者及び家族、そして支援する施設や団体などとの連携を密にする活動を行う
- 3) 佐賀6者協定事業にみられる産学官にわたる地域医療支援活動を充実させる。
- 4) 医療と介護の連携を促進する事業を展開し、“佐賀方式”としてまとめ、概算要求などを起案する。

8) 概算要求等外部資金獲得に向けての取り組み

(概算要求等外部資金獲得に繋げる研究として、今後どのような計画で取り組むか)

- 1) 佐賀大学としての概算要求基準への学内への起案済み

“アグリセラピー開発

背景

- ・高次脳機能／発達障害などを含め、障害や不適応症状を有する方の増加
- ・高齢化に伴い、認知症患者が増加
- ・行動心理症状(BPSD)の軽減や社会への適応などの対策が必要

対策

- ・社会的適応力の向上
- ・行動心理症状(BPSD)の軽減対策
- ・当事者やご家族への支援法が必要
- ・基礎研究、治療・支援の実践技法開発

手法

- ・先進的なヒューマンケアを開発・推進、学際的な観点から実践と数値化に基づくデータ収集、
- ・エラーレスラーニング応用
- ・効果検証の過程が必須

佐賀大学では、これまで培ってきた共同研究体制充実→開発基盤が既に形成

アグリセラピー開発

平成24-25: アグリセラピー開発の基礎研究
平成27: アグリセラピー開発の基礎研究
平成28: アグリセラピー開発の基礎研究
平成29: アグリセラピー開発の基礎研究
平成30: アグリセラピー開発の基礎研究

アニマルセラピーの医学的効果

- 1) 心筋梗塞後の死亡率を軽減(Friedmann '85)
- 2) 心筋梗塞後の心拍変動に優れる(Friedmann '03)
- 3) 熱帯魚を眺めることによる血圧降下作用(Katcher '96)
- 4) 血圧、コレステロール等改善(Katcher '81, Anderson '92, Parslow '03)
- 5) ストレス環境下での循環器系応答改善 (Allen '02)
- 6) ペット飼育が降圧効果増強(Allen '02)
- 7) 人と犬の触れ合いが双方に血圧低下(Odenndaal '03)
- 8) アルツハイマー病患者の栄養摂取改善(Edwards '02)

アニマルセラピーの心理精神的効果

- 1) 若年女性での抑うつ軽減(Zaslouff '94)
- 2) 配偶者死別の抑うつ軽減(Garrrity '89, Akiyama '86)
- 3) 長期療養型の高齢者施設での寂寥感低減(Banks '02)
- 4) ホスピスでの動物介在療法が有効(Muschel '84)
- 5) アルツハイマー病患者のBPSD低減、社会性向上(Komgable '89 Fritz '95)
- 6) 高齢者の小鳥飼育や植物栽培の効果(Mugford '75)
- 7) ペットとの暮らしが高齢者ADL上昇効果(Raina '99)
- 8) 高齢者の通院回数減少、QOL向上(Siegel '90)
- 9) 統合失調症患者への社会的適応性向上 (Barak '01)

園芸セラピーの効果

- 1) 基本的運動能力、筋力、体力の維持、増進
- 2) 適度の疲労感と爽快感
- 3) 満足感、達成感、自信と自尊心向上
- 4) 思考力・創造力・記憶力改善

対象者

- 1) 障害を有する方、一般高齢者及び認知症患者
- 2) 薬物やアルコール症患者、更正施設入所者
- 3) 特別支援学校生徒
- 4) ホスピス、緩和ケア病棟入院患者

実績

年度	事業名	総額(千円)
平成24年度	「高齢者・障害者に対する動物介在療法の実践的効果検証」	121,000
平成25年度	「高齢者・障害者に対する動物介在療法の実践的効果検証」	116,800
平成26年度	「高齢者・障害者に対する動物介在療法の実践的効果検証」	52,712
平成27年度	「高齢者・障害者に対する動物介在療法の実践的効果検証」	94,652
平成28年度	「高齢者・障害者に対する動物介在療法の実践的効果検証」	1,000

COCによりアグリセンターのICT化は実施

「高齢者・障害者に対する動物介在療法の実践的効果検証」

「高齢者・障害者に対する動物介在療法の実践的効果検証」

教育：仮称アグリジョブコーチ養成
研究：アグリセラピー開発効果検証
必要機器：人獣共にモバイル計測機器
必要人員：准教授、助教、事務・技術補佐員

理工学部

- ・位置計測GSI
- ・センサー技術
- ・姿勢行動計測
- ・福祉機器開発
- ・バリアフリー化

経済学部

- ・社会保障論
- ・障がい者雇用
- ・起業の社会貢献
- ・NPO支援
- ・雇用対策

農学部

- ・営農、就業支援
- ・農業におけるバリアフリー化
- ・ユニバーサルデザイン機器開発
- ・農業のICT化促進

文化教育学部

- ・子ども発達支援プログラム
- ・認知機能維持のため運動習慣
- ・特別支援教育との連携

医学部

- ・地域医療連携
- ・医学部実習
- ・基礎、臨床研究
- ・地域医療センター
- ・小児科、精神科、整形外科、看護学他

久保泉から発信し県内、国内外へ

現在の農業の問題点
 健康な人だけを対象とした栽培・飼育技術。就農者が減少、経済性を優先した画一的な農産物。
 ↓
 農のバリアフリー化……障害者の就農の機会が広がる。
 ↓
 家畜を使ったセラピー
 全国に例はほとんどない。
 人への影響だけでなく、家畜の受けるストレスを把握し、
 →家畜福祉に配慮した食肉生産。
 ↓
 園芸セラピー
 新しい農具や生産技術の開発。
 ↓
独法 農研機構との共同研究

30

2) 独法 社会技術研究開発センターRISTEX
科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム

3) 科学技術振興機構 A-STEP

・各種助成財団

9) これまでの外部資金獲得状況

- ・エイズ予防財団 HIV感染者相談支援事業（委託費） 850千円
- ・6者協議 産学官連携協定事業 認知症総合サポート事業 1,000千円

計画期間中に申請した外部資金 【申請済み、不採択】

- ①堀川悦夫ほか 総務省地域ICT振興型研究開発（SCOPE）
「時空間シームレス位置情報システムによる高齢者モビリティサポートの開発」、
- ②堀川悦夫ほか JST 社会技術研究開発（社会デザイン）
「シームレスライフナビによる平時被災時モビリティ支援」
- ③堀川悦夫ほか 文科省 リーディング大学院 包括的介護負担軽減事業
- ④堀川悦夫ほか 総務省 SCOPE ICT活用まちづくり
- ⑤堀川悦夫ほか 文科省 JST 高齢者社会デザイン
- ⑥堀川悦夫ほか 先導的人文社会研究
- ⑦堀川悦夫ほか 文科省未来医療人養成
- ⑧堀川悦夫ほか スズキ財団

学内研究資金

プロジェクト研究所（学著）経費	6,000千円
医学部支援経費	5,000千円
教育改善支援経費	200千円

9) 今後の展開にむけて

- 1) 高次脳機能障害調査研究と脳画像データベースを拡充し、併せて両データベースをリンクし総合的分析を行う。
- 2) 諸外国の高次脳機能障害などの機能回復訓練教材を導入し、日本版の作成と臨床応用を行う。
- 3) 先進総合機能回復訓練の動機づけを維持向上するため、患者・ご家族へのフィードバック方法を改良する。
- 4) 他の参加予定者とも共同し、訓練と生活・就労支援を連続的に行うことが可能なシステム設計と構築を行う。
- 5) 農学部フィールドセンターに関し、患者会などの組織の活動を支援できるよう

な支援機能向上をはかる。

- 6) ホームページやResearchGate, LinkedInなどの活用を図り、患者・ご家族と医療スタッフの相互交流を深める。
- 7) 農学部、及び工学系研究科（特に新井康平研究室）との連携が継続されており、今後も学際的に研究が推進可能である。

10) 発表論文,学会発表など

認知神経心理学 堀川

論文

- 堀川悦夫、認知症患者の運転可否判断、Dementia Japan, 2013.
- 大島千佳, 中山功一 画像の臨場感を高める香料の選定手法 嗅覚と匂い・香りの産業利用最前線 NTS 2013 3
- Oshima, C., Itou, N., Nishimoto, K., Yasuda, K., Hosoi, N., Yamashita, H., Nakayama, K., and Horikawa, E. A Music Therapy System for Patients with Dementia who Repeat Stereotypical Utterances Journal of Information Processing 2013.4 2,3 2
- Oshima, C., Nakayama, K., Itou, N., Nishimoto, K., Yasuda, K., Hosoi, N., Okumura, H., and Horikawa, E. Towards a System that Relieves Psychological Symptoms of Dementia by Music International Journal on Advances in Life Sciences 2013.12 2,3 3
- 光武翼, 一ノ瀬和洋, 松本幸, 佐藤鮎美, 堀川悦夫 頸部運動による追従課題が運動イメージ想起に及ぼす影響-fNIRSを用いた検証- 理学療法科学 2013.7
- Sakamoto, M. & Marcotte, T.D. Consequence of HAND for everyday functioning APA Psychology and AIDS Exchange Newsletter 2013
- Sakamoto, M., Marcotte, T.D., ... & Grant, I. Concurrent classification accuracy of HIV dementia scale for HIV-associated neurocognitive disorders in the CHARTER cohort Journal of Acquired Immune Deficit Syndromes 2013
- Sakamoto, M., Woods, S.P., ..., & Huckans, M. Protective effects of higher cognitive reserve for neuropsychological and daily functioning among individuals infected with hepatitis C Journal of Neurovirology 2013
- Sakamoto, M., & Spiers, M.V. Sex and cultural differences in spatial performance between Japanese and North Americans Archives of Sexual Behavior 2013.
- 永柄真澄・夏目朋之, 学生のキャリアデザイン力を高める地域総合科学科カリキュラムと授業の検討 佐賀女子短期大学紀要 2013.
- Masumi Nagae and Yoshiji Ishikawa Do Personnel Relocations Promote The Career Development Of Employees? Lessons From The Career Management System Of A Japanese Company Career Convergence 2013.
- 永柄真澄・横田秀策 中学生の職業意識調査から見えるキャリア教育の課題 佐賀女子短期大学紀要 2014.
- Shinichirou Ishii, Miwa Setoyama Social Distance for Schizophrenia by Nursing Students 日本医学看護学教育学会

- 石井慎一郎、井上範江、分島るり子、古島智恵 精神障害者の退院を促進する看護師の行動に関する文献研究－患者への行動に焦点をあてて－ 日本精神保健看護学会 2013
- Shinichirou Ishii, Fuyuko Nakashima, Setsuko Umezaki Creating Vignettes for Measuring the Clinical Judgment of Nurses Biomedical Fuzzy Systems Association 2014.
- 松田憲亮,中村友紀,池田翔,竹内健太郎 指床間距離の改善に対する治療介入効果-皮膚運動介入の即時効果- 柳川リハビリテーション学院・福岡国際医療福祉学院紀要 2013.
- 大島千佳, 中山功一 画像と香りの関係からみえる人の香りに対する感性、香料 2014

学会発表

- Oshima C., Nakayama K., Itou N., Nishimoto K., Yasuda K., Hosoi N., Okumura H., and Horikawa E. Mood induction using MusiCuddle with a vocoder: Major versus minor harmonies International Conference on Humanized Systems 2013.9.16-18
- Honda A., Oshima C., and Nakayama K. Estimation of the Facial Impression from Individual Facial Features for Constructing the Makeup Support System HCI2013 2013.7.21-26
- Sakamoto M., Woods S.P., Loftis J., & Huckans M. Cognitive reserve influences neuropsychological functions among individuals infected with hepatitis C 33rd annual conference of the National Academy of Neuropsychology 2013.
- Nagae M. Tatsuno R. Ishikawa, Y. The Value of Career Decisions and Career Developments in Japanese Organizations. ICDA conference, The Colours of Career Development 2013.3.28
- Nagae M. Tatsuno R. Ishikawa Y. Changes in employees' work values after personnel relocations : Career development in Japanese companies NCDA's Global Career Development Conference 2013.7.10
- 大島千佳, 中山功一, 伊藤直樹, 西本一志, 安田清, 細井尚人, 奥村浩, 堀川悦夫 MusiCuddleを利用した長調／短調の違いによる感情変化 情報処理学会音楽情報科学研究会 2013.8.31-
- 中山功一, 大島千佳, 伊藤直樹, 西本一志, 安田清, 細井尚人, 奥村浩, 堀川悦夫、音響を変更した音声フィードバックによる気分誘導の試み 計測自動制御学会 システム・情報部門 学術講演会 2013.11.18-20
- 中山功一 小野雅斗 福本敬也, 大島千佳 音楽によるコミュニケーションを支援するシステムに関する考察、第40回知能システムシンポジウム、計測自動制御学会 2013.3.14,15
- 中田裕治, 光武翼 脳卒中片麻痺患者におけるGaze Stability Exerciseがバランス能力に与える影響-重心動揺計での検討- 第21回佐賀県理学療法士会学会2013.2.17
- 光武翼, 中田裕治, 大石豪, 久原隆弘, 堀川悦夫、頸部多裂筋の組織変化とバランス能力の関連-MRIにおける筋肉内脂肪浸潤の計測と重心動揺計を用いた検証- 第48回全国理学療法学会 2013.5.25
- 光武翼, 一ノ瀬和洋, 堀川悦夫 両下肢痙性麻痺患者に対するボツリヌス療法と空間把握課題を併用することによるバランス能力向上-感覚モダリティの違いによるfMRIの活動領域の変化に着目して-、第14回日本認知神経リハビリテーション学会、2013.7.7

- ・一ノ瀬和洋, 光武翼, 中田裕治, 庄村圭介 重度の感覚障害を呈した脳卒中片麻痺患者の歩行獲得のための認知神経リハビリテーション 第14回日本認知神経リハビリテーション学会 2013.7.7
- ・光武翼, 中田裕治, 岡真一郎, 平田大勝, 堀川悦夫 脳卒中片麻痺患者に対する前庭リハビリテーションが平衡機能に与える効果-Gaze Stability Exerciseを用いた介入- 第10回日本神経理学療法学会 2013.12.15
- ・井手将文 市販ゲームの共用体験による障がいに対するイメージ変容(第四報) -中高校生でのワークショップ前後の意識調査比較- 日本福祉のまちづくり学会第16回全国大会 2013.8.25
- ・井手将文 市販ゲームの共用体験による障害に対するイメージ変容(第五報) -小中学生および大学生でのワークショップ前後の意識調査比較- 第12回福祉のまちづくり学会九州沖縄支部大会 2013.11.30
- ・石井慎一郎 精神科看護師の感情指数の実態調査 第4回日本看護評価学会学術集会 2014.3.4-5
- ・石井慎一郎 精神科看護師の臨床判断の傾向に関する調査-統合失調症の仮想事例における身体的拘束の見込み- 第5回日本看護評価学会学術集会2014.3.4-5
- ・石井慎一郎, 中島富有子, 森直美, 川野豊, 重富勇 看護師と一般住民の感情指数の比較(中間報告) 第33回日本社会精神医学会 2014.3.20-3.21
- ・石井慎一郎, 森直美, 中島富有子, 川野豊, 重富勇 精神科看護師と精神科以外の看護師の感情指数の比較(中間報告) 第33回日本社会精神医学会2014.3.20-3.21
- ・町島希美絵, 佐藤鮎美, 大島千佳, 橋本大輔, 小野茂伸, 雪竹基弘, 浅見豊子, 原英夫, 堀川悦夫 認知症および脳血管障害患者の運転適性と認知機能の関連性 日本老年医学会九州地方会 2013.3.9
- ・町島希美絵, 佐藤鮎美, 大島千佳, 橋本大輔, 小野茂伸, 雪竹基弘, 門司晃, 松島俊夫, 浅見豊子, 原英夫, 堀川悦夫 認知症および脳血管障害患者の運転適性と認知機能の関連性 日本高次脳機能障害学会学術総会 2013.11.29
- ・永柄真澄・堀川悦夫 日本人の製造業勤務者における職場環境の変化が職業性ストレスと精神的健康に与える影響 第20回日本産業ストレス学会 2013.1.18
- ・松田憲亮, 中原雅美, 田原弘幸・他 検査測定実習における社会人基礎力の問題点 第48回日本理学療法士協会学術大会 2013..5.28
- ・池田翔, 松田憲亮, 中原雅美 転倒予防指標としての歩行のバラツキ、歩行予備能力の有用性 第48回日本理学療法士協会学術大会 2013..5.27
- ・梅田泰光, 大木誠竜, 松田憲亮 非予測的課題における膝関節外反角に影響を与える因子の検討 第48回日本理学療法士協会学術大会 2013..5.28
- ・大木誠竜, 梅田泰光, 松田憲亮 非予測的課題における膝関節外反角とNAviculare drop testとの関連性 第48回日本理学療法士協会学術大会, 2013..5.28
- ・松田憲亮, 中原雅美, 田原弘幸・他 臨床実習における社会人基礎力の変化, 第26回教育研究大会・教員研修会 2013.8.23
- ・中原雅美, 安本誠一, 松田憲亮・他 国家試験得点と単位認定試験及び模擬試験との関連 第26回教育研究大会・教員研修会 2013.8.23
- ・松田憲亮, 中原雅美, 永井良治・他 "特定高齢者における筋力増強事業の転倒予防効果判定," 第3回国際医療福祉大学学会, 2013.9.1

招待講演

- ・堀川悦夫 3次元動作解析を臨床で活用するために必要なこと VICON User Conference in 神戸 2013.11.30

福祉健康科学部門 リハビリテーション医工学分野

松尾清美研究室の 2013 年度研究活動報告書

松尾 清美

2014/03/31

2013 年（平成 25 年）度 福祉健康科学部門 リハビリテーション医工学分野 松尾清美研究室の生活行動支援の研究と普及活動

松尾清美研究室は、佐賀大学医学部附属地域医療科学教育研究センター 福祉健康科学部門のリハビリテーション医工学分野である。松尾研究室では、障害者や高齢者の地域生活や住宅内での生活の自立度を高くするため、あるいは介助負担の少ない生活を支援するための生活行動支援方法について研究すると共に、その普及活動を行なっている。以下に、2013 年度の研究活動と普及活動の実績を報告する。

1. 松尾清美研究室（リハ医工学分野）の生活行動支援の実績

1-1. 2013 年（平成 25 年）度の生活行動支援の状況

身体障害者や高齢者からの福祉用具等に関する相談件数に関しては、当研究室に生活行動支援の相談に来られた件数や佐賀大学医学部附属病院の各科からの計測や生活機器の適合相談、佐賀整肢学園や嬉野特別支援学校や柳川療育センターなどの子供の生活行動支援に関する相談、佐賀県や他の県などからの相談件数を記載する。また、住宅や施設のバリアフリーや公共の施設のユニバーサルデザインに関する相談件数、企業からの機器や環境の相談件数、各種委員会への参画件数などを以下に記載する。

1) 身体に障害をお持ちの方からの福祉用具や補助器具に関する相談

①福祉健康科学部門の実験室での福祉用具の適合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95 件

②医学部附属病院外来からの相談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41 件

（ リハ科 12 件、皮膚科 3 件、小児科 4 件、形成外科 5 件、脳神経外科 2 件、
整形外科 1 件、神経内科 4、泌尿器科 3 件、病棟 7 件 ）

③佐賀整肢学園からの相談や適合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12 件

④他の地域（福岡、大分、北九州、鹿児島、長崎、唐津、鳥栖）からの相談・・・・ 16 件

2) 高齢者や身体に障害をお持ちの方からの住宅改造に関する相談

①福祉健康科学部門の実験室での相談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10 件

②医学部附属病院や外来（リハ科やソーシャルワーカーなど）からの相談・・・・ 6 件

③佐賀整肢学園からの相談や設計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 件

④ケアリフォームシステム研究会や工務店からの相談・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 件

3) 施設からの設備や機器具、あるいは施設設計などの相談

①佐賀県・・ 6 件

②福岡県・・ 2 件

③大分県・・ 1 件

4) 企業や施設からの福祉機器関連の相談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35 件

5) 委員会関連

- ・厚生労働省：・障害者自立支援機器等研究開発支援事業プロジェクト構成員
・障害者対策総合研究事業（身体・知的等障害分野）事前評価委員
- ・テクノエイド協会：平成 25 年度福祉用具臨床的評価事業委員会委員
- ・日本科学技術振興機構：A-S-T-E-P 探索タイプ専門委員
- ・国立障害者リハビリテーションセンター
：・「障害者の健康づくり普及促進検討委員会」基礎研究検討委員会
- ・佐賀県：・UD 推進委員会副会長（ものづくり部会長）、
：・佐賀県介護実習普及センターの在り方検討委員会委員
- ・佐賀市：・佐賀市バリアフリー委員会委員、
- ・唐津市：・唐津市福祉計画策定委員会委員長

1-2. 松尾研究室における生活行動支援の普及活動

1) 研究会・研修会・講演会での発表や広報

a. 全国対象の研修会や講演会および生活行動支援の広報活動：

- ①日本リハビリテーション工学協会の第37回車いすSIG講習会 in 沖縄にて、車いすの基礎「生活と車いす」を講演（那覇1/12～1/13）。
- ②国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）で開催された障がい者のための人材育成講座「世界で活躍する先輩が次の世代に託すこと」で、脊髄損傷者の生活方法と社会参加への心がけなどについて講演した（大阪1/19～1/20）。
- ③岩手大学で開催された日本リハビリテーション工学協会主催の東日本復興支援講習会に於いて、「万一、歩けなくなっても大丈夫、車椅子を活用して楽しい生活を獲得できます！ ～身体機能と生活方法、そして住環境に応じた、車椅子での生活の基本動作～」を講演した（岩手2/2～2/3）。
- ④大阪で開催されたバリアフリー展において、㈱プラッツと共同研究で開発した「膝当て移乗ベッド 柵ニーパロ」とズレの少ないギャッジ機構を持った電動ベッド「ミオレットフォーユー」の紹介を行った（大阪4/18～4/20）。
- ⑤東京フォーラムで開催された第50回日本リハビリテーション医学会の第40回脳性麻痺研究会に於いて、「最新の移動補助機具を使用した学齢期前障害児のリハビリテーションについて」講演し、開発している移動遊具や補助電動装置などについて報告した（東京6/15）。
- ⑥日本リハビリテーション工学協会の車いすSIG講習会にて「生活と車いす」および「移乗や姿勢変換などの機能」を講演（盛岡8/20～8/21）。
- ⑦東京ビッグサイトで開催された国際福祉機器展において、㈱プラッツと共同研究で開発したズレの少ない電動ギャッチベッド「ミオレットフォーユー」の紹介を行った（東京9/18～9/20）。
- ⑧第11回ケアリフォームシステム研究会の特別講演にて、「脊髄損傷者の住まいを考える」というテーマで講演（埼玉9/21～9/22）。
- ⑨第12回車いすシーティング技能者講習会にて、「車いす適合実践論～車いすの使い方」を発表（横浜市総合リハビリテーションセンター10/20）。
- ⑩第48回日本脊髄障害医学会にて、0Xエンジニアリングと共同開発している「着脱容易な電動ユニットを装備した電動・手動兼用車いすの開発」を発表した（福岡11/14～11/15）。
- ⑪西日本国際展示場にて開催された西日本国際福祉機器展に於いて、「福祉機器と住宅改修による自立（律）生活支援」を講演した（北九州11/23）。
- ⑫第14回脊髄尿管管理研修会にて、「脊髄損傷者の排泄管理における自助具の工夫」というテーマで講演（和歌山12/9）。
- ⑬広島県民文化センター内にあるサテライトキャンパスひろしまに於いて開催された広島国際大学の公開講座「咲楽塾・第2回リハビリテーション支援セミナー」で、「役に立つ福祉用具から人を育てる福祉用具の開発へ」を講演した（広島12/14）。

b. 九州各県あるいは県を跨いだ範囲の方々を対象とした講演会や生活行動支援の広報活動

佐賀県や佐賀市、唐津市、鳥栖市、上峰町、三日月町、県外では大分県などで開催された介護研修会やスキルアップセミナー、介護保険関連セミナー、福祉課などでの勉強会、介護者研修会、NPO、発達医療センターおよび療育センター、特別支援学校（金立、伊万里、嬉野、中原など）、教育関連講演会、公民館の高齢者教室、理美容師の会などで、生活行動支援や住宅改修、車いすの適合方法や車椅子での生活方法、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、社会環境改善などに関する講演を20回おこなった。そのほかに、各種団体や個人の見学会を通して、当研究室の研究活動や成果を広報した。

2) 新聞やTVニュース、インターネットなどでの当研究室の活動掲載：

松尾研究室の生活行動支援に関する研究や活動、あるいはその情報についての広報として、講演会

の告知報道やインターネットなどにて、活動内容や研究成果、製品化情報などが紹介された。その中でも今年度は、経済産業省が開催している「ものづくり日本大賞」で優秀賞を受賞したので、その受賞に関する記事と写真を記載すると共に、その他の例を以下に示す。

①リハビリテーション考「生きをひき取る」九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部長 橋本隆先生

筆者が脊髄を損傷して障害を持った身体と戦っていた最も苦しかった時期に、九州労災病院での治療とリハビリテーションを中心となって押し進めて頂いた先生が、筆者の受傷後から大学への復学、そして就職して現在に至るまでのことを素材にして書かれた記事です。当研究室が取り組んでいる内容を良くまとめて頂いているので紹介する。

筆者は交通事故で第9胸髄を損傷後、回復の為に最も大切な時期である急性期に一般の病院で半年間過ごした。その後、九州労災病院に転院して橋本先生に会ったのである。そして、主治医の緒方甫先生の医学的治療と泌尿器科の岩坪先生の排尿管理方法の指導、そして理学療法の橋本先生の生活方法の指導、そして脊髄損傷の先輩方などが私の心と身体を鍛え、生活への自信と勇気を再獲得させて頂いた。その後は、車椅子での移動やスポーツなどを楽しみながら、仕事を獲得した。この就職も前述の先生方や総合せき損センターの初代院長(故:赤津隆先生)が九州労災病院の整形外科部長であったことなど、幸運が重なって総合せき損センター医用工学研究室に就職でき、その流れから現在の職を得たのである。この様な経験が現在の部門の必要性と活動へと繋がっている。



図1. 西日本新聞に記載された筆者の受傷のリハビリテーション

②ものづくり日本大賞の優秀賞を受賞(佐賀新聞 2013年12月23日(月曜日) 山本礼史記者)

佐賀大の松尾清美准教授(人間工学)ら産学連携の研究チームが開発した多機能車いすが、政府の「ものづくり日本大賞」の優秀賞に選ばれた。体の負担を軽減するリクライニングシートで、理美容や医療介護の分野で普及が進んでいる。東日本大震災の被災地でも活用され、高い評価を受けた。

車いすは高さ1メートル、重さ50キロ。背もたれを後方へ傾けることが可能で、利用者が上体を起こす時に体のずれが生じないようにする機能を持つ。座面の弾力性を調整して姿勢を変えずに長時

間座れる構造も取り入れ、肘掛けを調節して車いすからベッドや風呂などへの移乗もしやすくなるように設計した。

大分市で訪問理美容を手掛ける会社「ビューティフルライフ」（田中晃一社長）から相談を受け、5年前から開発を進めた。通常の車いすに座っての散髪や洗髪は難しいため、高齢者や障害者にサービスを提供しにくいのが実情。そのため、理美容室のいすと同じような多機能型の車いすをイメージし、体の負担を軽くする技術を採用した。市販化して全国で130台程度を販売している。（以下、一部削除）



図2. 開発した車椅子と筆者

松尾准教授は「座り心地を含め、利用者の視点に立った構造になっている。車いすもいろいろなタイプがあり、利用者に応じて使い分けることで生活の質の向上につながる」と話す。（図2）。

②バリアフリー住宅改修リフォーム業者ら研修（佐賀新聞2014年3月18日（火））

松尾清美実験室にて、リフォーム業者の方々へ、住宅のバリアフリー環境を整えるため知っておいて欲しい移乗動作の基本などを伝達した。その研修状況が取り上げられた（図3）。

3) 附属病院や福祉施設などでの生活行動支援の普及活動

佐賀大学医学部においては、北病棟や救急医療設備の新築をはじめ、講義棟の改築（図4）も始まり、バリアフリー工事が進んでいるが、附属病院や一般の病院や施設に於ける車椅子などの福祉用具や施設環境は、未だにバリアフリー環境になっていない状況である。そのため、近年、病院や施設から車椅子等の福祉用具や施設環境の改善相談が多くなってきている。そこで、病院や施設への生活行動支援の普及にも力を入れており、北九州の小倉リハビリテーション病院や佐賀県内外の高齢者施設などの車椅子整備相談や使い方相談をはじめ、特別支援学校のトイレや浴室での自立生活方法や福祉機器の使い方、介助負担の軽減方法などを伝達した。

バリアフリーに住宅改修

リフォーム業者ら研修

福祉、介護 高齢化のニーズ対応

住宅、木材関連の業界と行政でつくる「木の家・まちづくり協議会」は、バリアフリーの視点を持つ住宅リフォーム事業者の育成に取り組んでいる。福祉、介護の知識を習得し、体の動き具合や生活の不便など個別の事情に応じて改修を提案する狙い。急速に進む高齢化のニーズに応え、新たな顧客獲得を目指す。

協議会は2011年度から「リフォームトクタイ育成事業」を推進。ビジネスマナーの向上や営業力の強化、助成金の活用などを研修テーマに、これまで延べ約1200人が受講した。本年度からバリアフリーに本腰を入れる。

3月上旬には、佐賀大学医学部の松尾清美准教授（人間工学）の研究室で実習会を開いた。車いすから便器や風呂などへの移動を体験しながら、体が不自由な人も車いすや便器などの高さを合わせることでスムーズに移動できることを学んだ。

「住宅改修を工夫することで入浴や排せつなど自力でできることを増やせるし、生活の質も向上する。自立生活につながる住環境の重要性をもっと広めるべき」と松尾准教授は指摘する。

リフォーム業界では団塊世代を中心に増改築の注文が増え、おりに、事業を通してバリアフリーに理解のある事業者を増やし、医療や介護とのネットワークも強めていく方針だ。

松尾准教授は「バリアフリーのリフォーム住宅の地産地消や、産業界振興にもつながる。家の中はバリアのない生活が当たり前となるよう、取り組みを発展させてほしい」と期待を込める。事業の担当者は「高齢化に対応し、需要の掘り起こしになる。今後は新築の段階からバリアフリーの視点を取り入れられるよう幅広い分野との連携を深めていきたい」と話す。（山本礼史）

図3. 住宅改修の研修会を伝達する佐賀新聞の記事



図4. 改築が進む地域医療科学教育研究センターと講義棟

2. 著書・論文・学会発表

2-1. 著書・総説

- 1) 松尾清美：障害者(児)の生活環境改善による生活動作の改善、地域リハビリテーション、第8巻第1号、p29-35、2013.
- 2) 松尾清美：生活と車椅子、車椅子の基礎、第37回日本リハビリテーション工学協会車いすSIG講習会テキスト、p11~p20、那覇、2013.
- 3) 松尾清美：巻頭言「自立(律)生活を目指す」という考え方でリハビリテーションを進めることが大切、総合リハ、41巻7号、p609、2013.
- 4) 松尾清美：9. 自動車運転用補助装置・特殊自動車、JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION、Vol. 22, No. 5, 2013.
- 5) 松尾清美：街に出たくなる車椅子、特集「心からリハする」、リハビリテーション・エンジニアリング、Vol. 28, No. 3, p122 -p125, 2013.
- 6) 松尾清美：車いすテニスの普及とジャパンオープン第1回大会(1985年)、時代を読む、ノーマライゼーション障害者の福祉、Vol. 8, p5, 2013.
- 7) 松尾清美：自立・リハビリ・介護のための実用的なロボットとは、特別併設シンポジウム「自立・リハビリ・介護のための実用的なロボット技術の創出」、第35回日本ロボット学会学術講演会寄稿原稿冊子、2013.
- 8) 松尾清美：生活と車椅子(手動車椅子~電動車椅子を使った生活)、アクティブユーザーから学ぶ車椅子、第38回日本リハビリテーション工学協会車いすSIG講習会テキスト、77~82、盛岡、2013.
- 9) 松尾清美：万一、歩けなくなっても大丈夫、車椅子を活用して楽しい生活を獲得できます！~身体機能と生活方法、そして住環境に応じた、車椅子での生活の基本動作~、日本リハビリテーション工学協会復興支援講習会テキスト、p5-p12、2013.

2-2. 学会発表・論文

- 1) 庄野菜穂子、音成道彦、松尾清美、他：頸髄損傷車いすテニス選手におけるメディカルサポート(第二報)、第22回日本障害者スポーツ学会、和歌山、2013年1月.
- 2) 松尾清美：最新の移動補助機具を使用した学齢期前障害児のリハビリテーションについて、「脳性麻痺児のMR画像解析の進歩と最新のリハ器具を使用したリハビリについて」、第40回日本脳性麻痺研究会、東京、2013年6月.
- 3) 中村俊哉、桂律也、沖川悦三、松尾清美、他：車椅子とその使用者に対する歴史調査活動報告-車いすSIGにおける歴史調査活動報告-、第28回リハ工学カンファレンス講演論文集、p283-p284、岩手、2013年8月.
- 4) 松尾清美、松永圭五、古賀慎弥、深野健太郎、清本太郎、石橋弘人、坂井吉祥：四肢麻痺者などが自立操作可能なギャッチベッドの開発、第28回リハ工学カンファレンス講演論文集、p63-p64、岩手、2013年8月.
- 5) 松尾清美、田中晃一、山形 茂生：理美容や医療の現場で使用することができる多機能車椅子の開発と試用評価、第28回リハ工学カンファレンス講演論文集、p33-p34、岩手、2013年8月.
- 6) 北野義明、田中 理、松尾清美、沖川悦三、他：車いす利活用の未来を考えたロードマップの提案、第28回リハ工学カンファレンス講演論文集、p285-p286、岩手、2013年8月.
- 7) 松尾清美：手動車椅子や電動車椅子の適合経験から未来の車椅子を考える、パネルディスカッション 3 義肢装具での歩行と車椅子での移動を創る~歴史から未来を考える~、日本義肢装具学会誌 JSP0, Vol. 29, p95, 佐賀、2013年10月.
- 8) 松尾清美、川口比呂志、辛川洋介、北島健郎、武富利勝、他：学齢期前重度肢体不自由児が自立移動を獲得するための簡易移動機の市販化、日本義肢装具学会誌 JSP0, Vol. 29, p231, 佐賀、2013年10月.

- 9) 松尾清美, 沖川悦三, 吉松春男, 中尾彰宏: ミニカーをC6レベル頸髄損傷者が運転するための開発～その2～, 日本義肢装具学会誌 JSP0, Vol. 29, p267, 佐賀, 2013年10月.
- 10) 松尾清美, 有菌 央, 千々和直樹, 他: 学齢期前の下肢障害児の成長に対応してサイズや背張り等の調節をすることで, 身体の変形を予防し, 駆動し易い車椅子の開発, 日本義肢装具学会誌 JSP0, Vol. 29, p232, 佐賀, 2013年10月.
- 11) 丸山倫司, 松尾清美, 河本直哉, 樋田竜男: 簡易型動作解析システムの開発, 日本義肢装具学会誌 JSP0, Vol. 29, p268, 佐賀, 2013年10月.
- 12) 村田知之, 沖川悦三, 松尾清美, 浅見豊子: 座面高の高さ設定が車椅子座位での両下肢交互駆動に与える影響について, 日本義肢装具学会誌 JSP0, Vol. 29, p145, 佐賀, 2013年10月.
- 13) 武智あかね, 久保田珠, 野田智美, 那須賢一, 美松尾清美: 「移動遊具」の使用を通じて～移動経験の重要性～, 全国肢体不自由児療育研究大会, 東京, 2013年10月.
- 14) 松尾清美, 石井重行: 着脱容易な電動ユニットを装備した電動・手動兼用車いすの開発, 第48回日本脊髄障害医学会, 149, 福岡, 2013年11月.
- 15) 光安由佳, 松尾清美, 小宮幸三: 視覚障害をもつ重症心身障害児の能動操作の獲得～個別支援を行う上での課題～, 第18回福岡県作業療法学会, 北九州, 2014年2月.

3. 共同研究と受託研究

3-1. 共同研究

1) 研究題目: 利用者の自立をサポートする次世代介護ベッドの共同開発

依頼者 : 株式会社プラッツ

研究期間: 2009年（平成21年）5月14日～2014年（平成26年）6月30日

研究費総額: 4,000,000円

研究概要: 介護ベッド利用者の事故が年間数十例発生する中, 介護ベッドに対する様々な安全性が要求されているが, 「利用者の自立をサポート」「人間工学から見た安全性の再構築」「ベッドと車いすの安全な移乗」などをテーマに次世代介護ベッドを開発した。平成24年度より, 発売を開始しており, 好調な販売を継続している。図5は, 開発したベッドの特徴で, リクライニングしても身体がずれない5モーションのリクライニング機構の説明図である。

研究代表者: 医学部 松尾清美

共同研究者: 株式会社プラッツ (松永圭五, 古賀慎弥, 深野健太郎, 石橋 弘人)

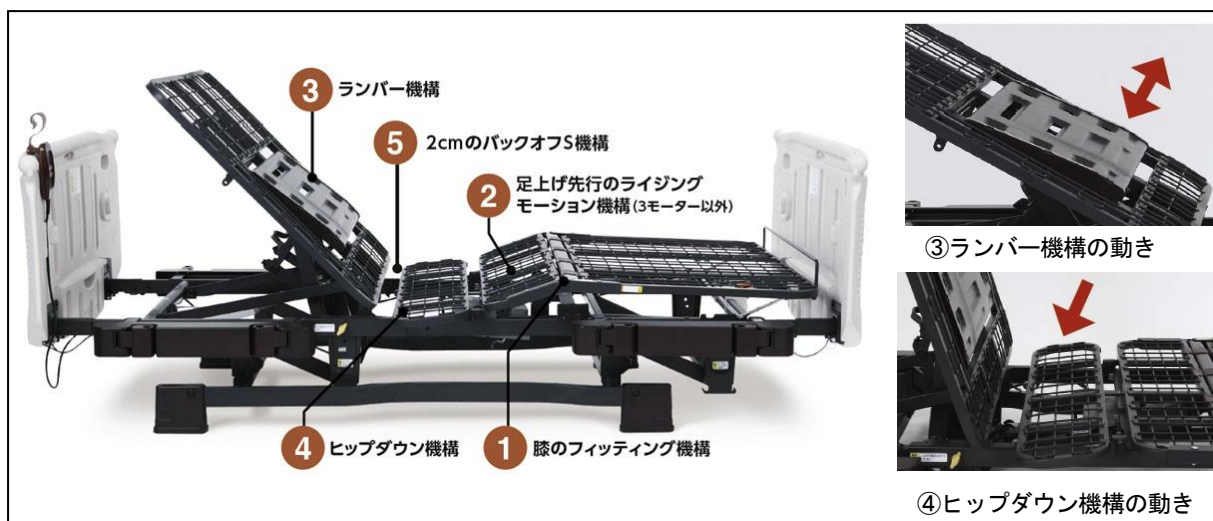


図5. プラッツと共同開発した5モーションのリクライニング機構

2) 研究題目：高齢者用車いすの共同開発

依頼者：矢崎化工株式会社

研究期間：2011年（平成23年）8月19日～2014年（平成26年）2月28日

研究費総額：2,500,000円

研究概要：車いすを使用することは、寝たきりを予防するためにも、ベッドから離れ自立した生活をするためにも大切なことである。トイレや浴室、食卓やリビングへの移動や移乗から、庭や散歩など外での移動など、生活空間を広げることが出来るのである。この移動によって、身体機能の向上はもちろん、精神機能の向上にもつながる。これらを実現するためのモジュラー型車いすの開発を行うものである。また、第2期目となる平成24年8月からは、矢崎化工株式会社の「タッチアップ」という立ち上がり補助の福祉機器を発展させ、座位移乗の安全性と自立性を高める福祉機器の開発も同時に進めることとなった。

研究代表者：医学部 松尾清美

共同研究者：矢崎化工株式会社 技術センター 渡辺 弘卓, 中村昌史, 高橋 朋継

3) 研究題目：学齢期前の下肢障害児の成長に対応してサイズや背張り等の調節ができる車いすの開発

依頼者：株式会社 有菌製作所

研究期間：2011年（平成23年）9月1日～2013年（平成24年）12月31日

研究費総額：200,000円

研究概要：厚生労働省は、子供の成長に対応した車いすの作成を認めている。しかし、学齢期前や低学年児用としては、採寸して作成するオーダー車いすがあるものの、成長対応となっているものは無いのが現状である。そこで、学齢期前の子供に適合でき、5年程度の成長に対応して、各部寸法の調整をすることで、成長に伴う変形を少なくすることができ、且つ駆動し易い車いすの開発を行うものである（図6）。これによって、学齢期前から自立移動できる範囲を広げることで、身体機能や自立度を向上させることにつながると考えている。

研究代表者：医学部 松尾清美

共同研究者：株式会社 有菌製作所 有菌 央, 精松 範光, 千々松 光, 千々和 直樹

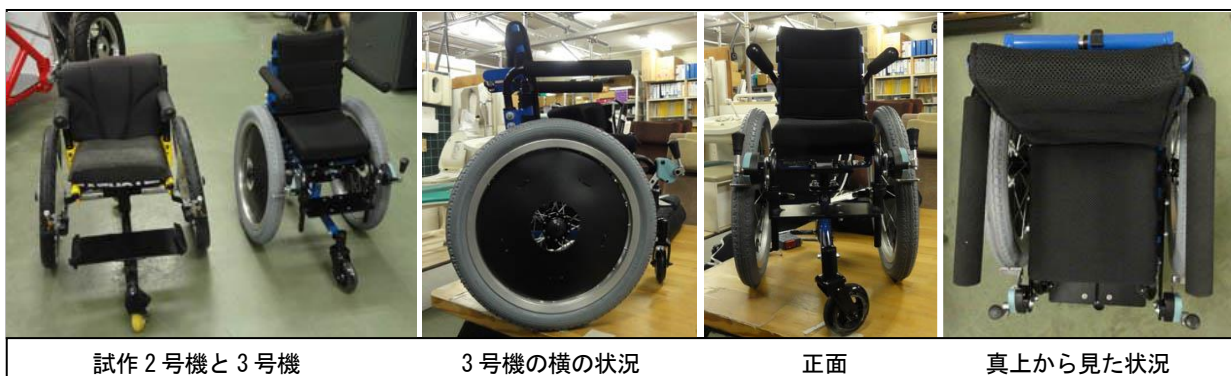


図6. 学齢期前の子供に適合し、その後の成長と共に調整して適合していける車いすの試作機の状況

4) 研究題目：重度肢体不自由児の自立移動と自律生活に関する研究

依頼者：平成23年度 佐賀大学学長経費 研究シーズ事業

研究期間：2010年（平成23年）7月15日～2013（平成25年）3月31日

研究費総額：3,000,000円

研究概要：自分の足では歩行できない学齢期前の身体障害児が自立して移動できるようにするため、本人が所有している姿勢保持装置や車いすなどを載せて、自分で操作して自立移動できる自立移動装置の開発と姿勢保持の固定装置の開発、および衝突時の安全性やコントロール性能、

段差の乗り越え性能の向上などの研究を進め、重度肢体不自由児が自律生活を獲得するための教育と支援方法を研究するものである（図7）。

研究代表者：医学部 松尾清美

共同研究者：医学部泌尿器科（魚住二郎）、医学部小児科（松尾宗明）、医学部リハ科（浅見豊子）、佐賀県工業技術支援センター（辛川洋介、川口比呂志）、㈱サンプラス（山口産興）佐賀整肢学園、株式会社戸上電機（武富利勝）、㈱佐賀プラント工業（北島健郎）

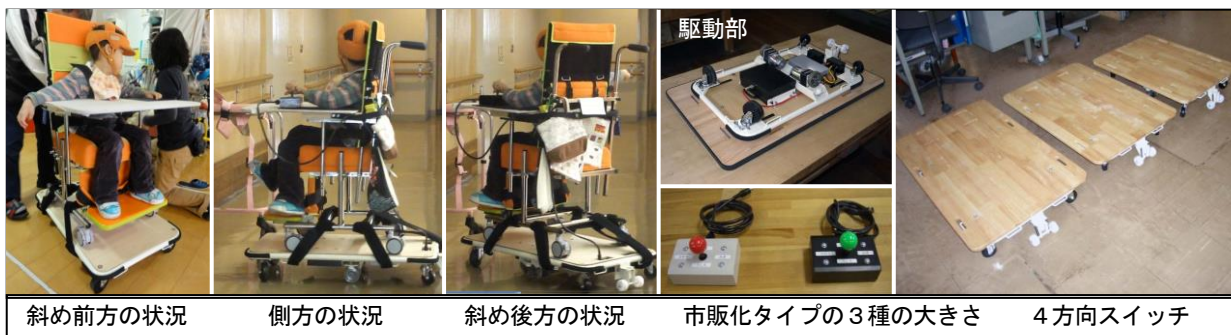


図7. 学齢期前の自分では身体を動かさない子供に適合し、自立移動できる電動移動遊具の開発

5) 研究題目：グラフト重合法によって製作された綿糸で造られた布が病室の浮遊菌や常在菌に対する効果の客観的計測評価

依頼者：有限会社オオヤブ

研究期間：2011年（平成24年）4月19日～2014（平成26年）12月31日

研究費総額：500,000円

研究概要：久留米絨製品の製造卸の㈱オオヤブは、グラフト重合法で製作された布を使って、脱臭や除菌機能を持った袋やカーテンを製造して社会貢献している会社である。その製品であるカーテンなどの脱臭・除菌効果について、客観的なデータを収集すること、および応用範囲を検討することによって、臭いや感染などで困っている環境の改善方法を提案して、高齢者や障害者の生活環境改善、あるいは病院や施設の感染予防対策などを通して社会貢献することが、この共同研究の目的である。図8に計測状況を示す。

研究代表者：医学部 松尾清美

共同研究者：医学部 病因病態科学（宮本 比呂志 教授）、附属病院感染制御部（金子 ゆかり）検査部（永沢 善三）



図8. トレーサビリティエアロバイオコレクターでの計測状況

6) 研究題目：足駆動による短距離移動が容易な椅子の研究

依頼者：株式会社岡村製作所

研究期間：2011年（平成24年）8月10日～2014（平成26年）5月30日

研究費総額：3,000,000円

研究概要：今後の労働者人口の減少に伴い、高齢者ワーカー、障害者ワーカーの増加が予想される。それに伴い、室内の短距離移動に不自由を感じているワーカーは増加すると思われる。また、コラボレーションスペースや、ラーニングコモンズといった立ち座りの多い作業スタイルも増えている。そこで、下肢に障害のある人のみならず、立ち座り動作が多い人達が使用する、足駆動による短距離移動ができる椅子を開発する。足駆動による最新の車いす機能を日常使用する椅子に融合させることにより、より快適で、かつ体への負荷を軽減でき、一般公共施設や個人自宅において幅広く活用できる椅子を研究するものである（図9）。

研究代表者：医学部 松尾清美

共同研究者：神奈川県総合リハビリテーション事業団事務局研究部 沖川悦三、村田知之
株式会社岡村製作所 沼 直樹、高橋卓也、杉山 渉、原 永祐、浅田晴之

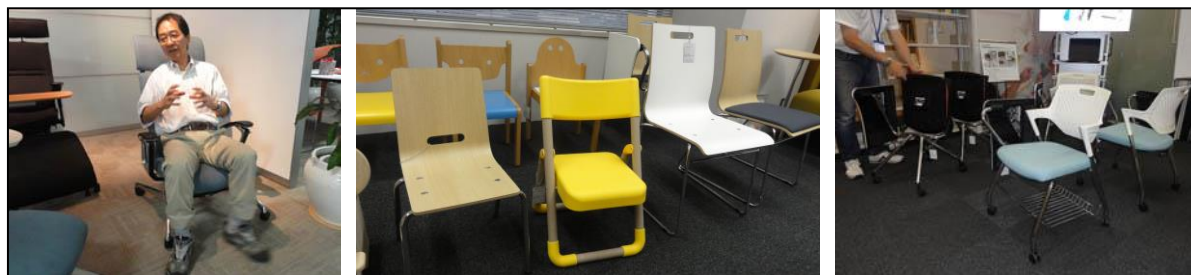


図9. 株式会社岡村製作所での打ち合わせ状況と各種椅子

7) 研究題目：快適な車いす及び在宅介護の向上を図るシャンプー台の開発

依頼者：有限会社ビューティフルライフ

研究期間：2011年（平成24年）11月1日～2013（平成25年）10月31日

研究費総額：550,000円

研究概要：当大学との研究で新リンク機構を発案し、多機能車いすと移動シャンプー台を完成し、発売を開始したところである。

本研究では、同機構を自走車椅子に搭載し軽量化を図るものである。この研究応用により在宅介護・医療の為に簡易シャンプー台の研究開発を行い高齢者等のQOLに貢献する。この研究によって、福祉の分野でこの車いすとシャンプー台を使用できるようになれば、その意義は大きい。また、社会的にも高齢者や障がいのある方の利用者にとってもずれにくい新リンク機構や体圧分散等を含む機能改善をした車いすの開発や在宅療養中の方々へ向けた簡易シャンプー台は必要な研究開発であり、高齢化を向えた利用者全国の方々への為にも活用されることから開発は急務である。

研究代表者：医学部 松尾清美

共同研究者：有限会社ビューティフルライフ 田中晃一



図10. 有限会社ビューティフルライフと開発した多機能車椅子とシャンプー台

8) 研究題目：電動駆動によるオフィス向け及び公共施設向け椅子の共同研究と評価の実施

依頼者：株式会社岡村製作所

研究期間：2013 年（平成 25 年）8 月 19 日～2014（平成 26 年）9 月 30 日

研究費総額：500,000 円

研究概要：下肢不自由なオフィスワーカーや高齢化社会に於いて、電動駆動装置を搭載したオフィス向け及び公共施設向けの椅子開発を進めている中で、実際に使用される環境で考慮されるべき安全性や利便性を追求するとともに、市場の要求事項や法規にかかわる内容も研究テーマに取り込み、総合的に研究・評価を実施する。より一層社会に貢献できる製品開発を目指す。



図 11. 上に表示する岡村製作所の様々な椅子から新たな椅子の創作を行った

4. 松尾清美の平成 24 年度 産学連携関連業務実績一覧

4-1. 佐賀大学知的財産登録（1 件）と技術移転実施契約（2 件）

特許等出願 2 件

発明の名称	国	出願日	出願番号
自動車用座席	日本	H25.6.26	特願 2013-133819
動作解析装置および動作解析方法	日本	H25.10.25	特願 2013-222585

特許等登録 3 件

発明の名称	国	登録日	登録番号
事務用車椅子	日本	H25.7.12	第 5313655 号
駆動装置およびそれを備えたキャスター付屋内移動装置	日本	H25.7.26	第 5324983 号
椅子	日本	H25.12.20	第 5433832 号

技術移転実施契約 2 件

発明の名称	契約種別	契約日	出願・登録等番号	契約企業	収入金額	実績
姿勢補助椅子	特許権実施許諾	H19.11.29	特願 2007-216371	H 社(国内)	非公開	収入
椅子	特許権実施許諾	H24.5.10	特願 2008-299789	B 社(国内)	非公開	収入

4-2. 産学連携によって開発した機器の普及啓発活動

1) バリアフリー展

期 日：2013年4月19日（木）～4月21日（土）

場 所：インテックス大阪

広報概要：(株)プラッツと共同研究で開発したズレの少ないギャッチ機構を持った電動ベッド「ミオレットフォーユー」の発表を行った（図12）。



図12. バリアフリー展での展示状況

2) キッズフェスタ 2012

期 日：2013年4月18日（木）～20日（土）

場 所：東京流通センター

広報概要：株式会社佐賀プラント工業と佐賀県と共同開発している子供用電動移動遊具のデモンストレーションと試乗会を行った。

3) 日本リハビリテーション工学協会の車いすSIG講習会

期 日：2013年8月20日（火）～21日（水）

場 所：盛岡

広報概要：ベッドへの膝当て移乗方法を伝達するため、(株)プラッツと共同研究で開発した「ミオレットフォーユー」および「膝当てニーパロ」を使って講習した。

4) 日本リハビリテーション工学協会主催の第27回リハ工学カンファレンス in 岩手

期 日：2013年8月22日（木）～24日（土）

場 所：盛岡

広報概要1：(株)プラッツと共同研究で開発したミオレットフォーユーについて、「背や臀部のずれを生じないギャッチアップ機構と電動ベッドの開発」と題して、ポスターセッションにて発表した。

広報概要2：株式会社佐賀プラント工業と佐賀県と共同開発した簡易移動機について、「重度身体障害児の自立移動を目指した簡易移動機の開発」と題して、簡易異動機を持参し発表した。

広報概要3：株式会社有菌製作所と共同開発した成長対応子供用車椅子を展示して発表した。

5) 東京国際福祉機器展

期 日：2013年9月18日（水）～20日（金）

場 所：東京ビッグサイト

広報概要：(株)プラッツと共同研究で開発したズレないベッド「ミオレットフォーユー」を展示発表した（図13）。



図13. HCR 展での展示状況

6) 西日本国際福祉機器展

期 日：2013年11月22日（木）～23日（土）

場 所：西日本総合展示場（北九州）

広報概要：NPO 福祉用具ネットのブースにおいて、「福祉機器と

住宅改修による自立（律）

支援」について講演を行った。

また、(株)プラッツと共同研究で開発したズレない

ベッド「ミオレットフォーユー」と膝あて移乗そう

ち「ニーパロの」展示を行

った（図14）。



図14. 西日本国際福祉機器展でのニーパロの使い方説明

地域包括医療教育部門
報告書

地域包括医療教育部門 平成 25 年度活動報告

酒見 隆信	教授（専任） 部門長
小田 康友	准教授（専任）
福留 健司	准教授（専任）
青木 洋介	教授（兼担・国際医療学講座）
江口有一郎	教授（兼担・肝疾患医療支援学講座）
江村 正	准教授（兼担・卒後臨床研修センター）
吉田 和代	准教授（兼担・卒後臨床研修センター）

事務補助員	植田美穂、木本晶子
スキルストレーナー	原口まさ美、山崎加奈枝

はじめに

現在、医療教育部門は専任 3 名と兼担 4 名、事務補助員 2 名、スキルストレーナー 2 名で学部内の協力・支援を得て業務を遂行している。以下はその主業務である。

1 担当教育科目

- 1.1 医学科 Phase I：大学入門科目「医療入門」 I・II・III 担当。
- 1.2 医学科 Phase III：フェイズチェア。臨床医学科目 PBL・TBL 管理
- 1.3 医学科 Phase IV：コミュニケーショントレーニング実施
- 1.4 医学科 Phase V：選択コース
「ハワイ大学臨床推論ワークショップ」「教育能力の開発」「海外臨床実習」実施

2 臨床技能教育・評価

- 2.1 3・4 年次「臨床入門」実施
- 2.2 4 年次末共用試験 OSCE 実施
- 2.3 5 年次末 Advanced OSCE 実施
- 2.4 医療面接模擬患者グループか“のぞみ”運営

3 カリキュラム運営、評価・開発

- 3.1 Phase III アンケートを用いたプログラム評価
- 3.2 Phase III ユニット CBT を用いた学生の学力評価と個別指導
- 3.3 共用試験 CBT 成績を用いた教育評価
- 3.4 卒業試験成績を用いた国家試験対策
- 3.5 スキルラボ管理

4 国際交流

- 4.1 国際交流部会長担当

- 4.2 国際交流提携校との交換留学
- 4.3 医学教育振興財団英国臨床実習応募支援
- 4.4 非提携校への留学派遣・受け入れ支援
- 5 社会貢献
 - 5.1 琉球大学 FD 講師、ハワイ・沖縄プロジェクト顧問
 - 5.2 九州大学非常勤講師
 - 5.3 医学教育学会代議員、コア・コンピテンス委員会委員

このように当部門は、直接の授業・実習担当はもちろん、カリキュラム評価・開発、国際交流まで、幅広い業務を担っている。

中でも、臨床技能訓練は少人数指導と反復練習が不可欠であるが、医師・常勤教員にはそのプログラムを維持するマンパワーは期待できず、スキルトレーナーの二名が実施している。医師ではなく看護師としてのバックグラウンドをもつスキルトレーナーの教育の質は、教員同等以上のものが保たれていることが、学生アンケートから読み取れる。

カリキュラムの評価・開発、あるいは試験を通しての学生の学力分析・個別指導は、膨大な情報処理が必要になるが、これも事務補助員の二名の協力によって実施している。教育担当部署・担当者への即時のフィードバックが可能となっていることが、本学の講義や PBL テacher への評価が年々向上している一因となっていると思われる。

共用試験ならびに卒業試験 OSCE の運営、「医療入門」科目の運営には、卒後臨床研修センターの江村准教授、吉田准教授の多大な指導・助力をいただいている。青木教授、江口教授には、国際交流業務の主力を担っていただいている。

25 年度末をもって、これまで当部門を率いてこられた酒見教授が退任された。教育部門という新しい部門をゼロから立ち上げ、教育の運営、評価・質向上に重要な役割を担う部門へと成長させてこられた酒見教授の仕事を発展させ、国際標準と日本の特性を両立させた優れた教育システムを構築していきたい。

H25 年度活動実績

地域包括医療教育部門 小田康友

1. 学部教育

区分	授業科目名	対象学科・学年	コマ数
教養教育(主題科目)	海外留学の勧め	医学科・看護学科1年	1
講義	Unit1 地域医療	医学科3年	20
	医療入門 I	医学科1年	1
	医療入門 II	医学科2年	8
	臨床入門	医学科3-4年	72
実習	医療入門 I	医学科1年	4
PBL チューター	Unit1 地域医療	医学科3年	6
臨床実習	総合診療部実習	医学科5年	42
選択コース	PBL 教育方法の学習・開発	医学科6年次	28
	海外臨床実習	医学科6年次	8

2. 研究指導等

大学院指導学生 修士1名

3. 教育研修等

【学内】

- PBL チューターのための PBL 研修会主催 (5月9日)
- TBL 研修会主催 (5月27日)
- 医学教育に関する特別講演会主催 (8月3日)
- H25 年度共用試験医学系 OSCE 評価者認定講習会主催 (9/28、10/6、10/27)

【学外】

- 琉球大学医学教育フェロースhip (8月10日)
- 旭川医科大学 FD (8月30日)

4. 組織運営活動

- 全学教育機構運営委員
- 国際交流推進センター・学生交流部門委員
- 教育委員会委員
- 教育広報部会長
- PhaseIII 検討部会委員長
- 国際交流事業推進部会長
- シナリオ検討部会長

- 地域枠入学生用特別プログラム委員
- カリキュラム改訂WG委員
- 図書館医学分館運営委員委員
- PhaseⅢチェアマン
- 3-4年次「臨床入門」教科主任
- 6年次選択コース「海外臨床実習」教科主任

5. 研究領域

- 役員等
 - 日本医学教育学会代議員
 - 日本医学教育学会 コア・コンピテンス教育委員会
- 助成金
 - 佐賀県鍋島閑叟公顕彰医師留学支援事業奨励金 400千円
 - 日本学生支援機構 留学生交流支援制度奨学金 320千円
 - 科学研究費助成事業の応募申請に係るインセンティブ 588千円

6. その他

- 「医学・看護学教育通信」を隔月発行、医学部ホームページに掲載
- 模擬患者グループ“のぞみ”顧問

H25 年度 スキルトレーナー活動報告書

- 活動目的 学生のクリニカルスキル向上
将来の医療従事者としての姿勢・態度の変容の足がかりとなる
- 担当者 原口まさ美・山崎加奈枝
- 活動内容 3年次・4年次の臨床入門クリニカルスキルの授業において、講師と共に学生に技術指導を実施。
その他
授業時の資料作成・物品準備 学生の自己評価表集計。
学生の自己学習時の対応 (特に mini-OSCE 前・再試験前)。
スキルスラボ：メンテナンス・管理
Phase3 クリニカルスキルプログラムアンケートの実施

<活動の詳細>

授業名	時間数	授業名	時間数
【医療入門 1 Early Exposure・看護実習】		【4年次臨床入門】	
車いす移乗の援助	9時間	眼底鏡・耳鏡の見方	6時間
病棟看護体験実習	12時間	神経診察	6時間
【医療入門 3 学外ケア実習】		TPR シートの見方	1時間
血圧測定 (希望者のみ)	1時間半	医療面接 (SP 参加型ロールプレイ)	
【3年次臨床入門】		【4年次1-2月臨床入門】	7時間半
バイタルサイン	6時間	採血実習	4時間半
腹部診察法	6時間	異常心音の理解	4時間半
呼吸器診察法	6時間	シミュレータ	6時間
診察に必要な体表解剖の理解	1時間半		
呼吸器シミュレータ	6時間		
循環器診察法	6時間		
循環器シミュレータ	6時間		
医療面接 (SP 参加型ロールプレイ)	7時間半		
頭頸部診察法	6時間		
異常心音の理解	6時間		
乳房・直腸診察法	6時間		
mini-OSCE	7時間		
臨床入門筆記試験	3時間		

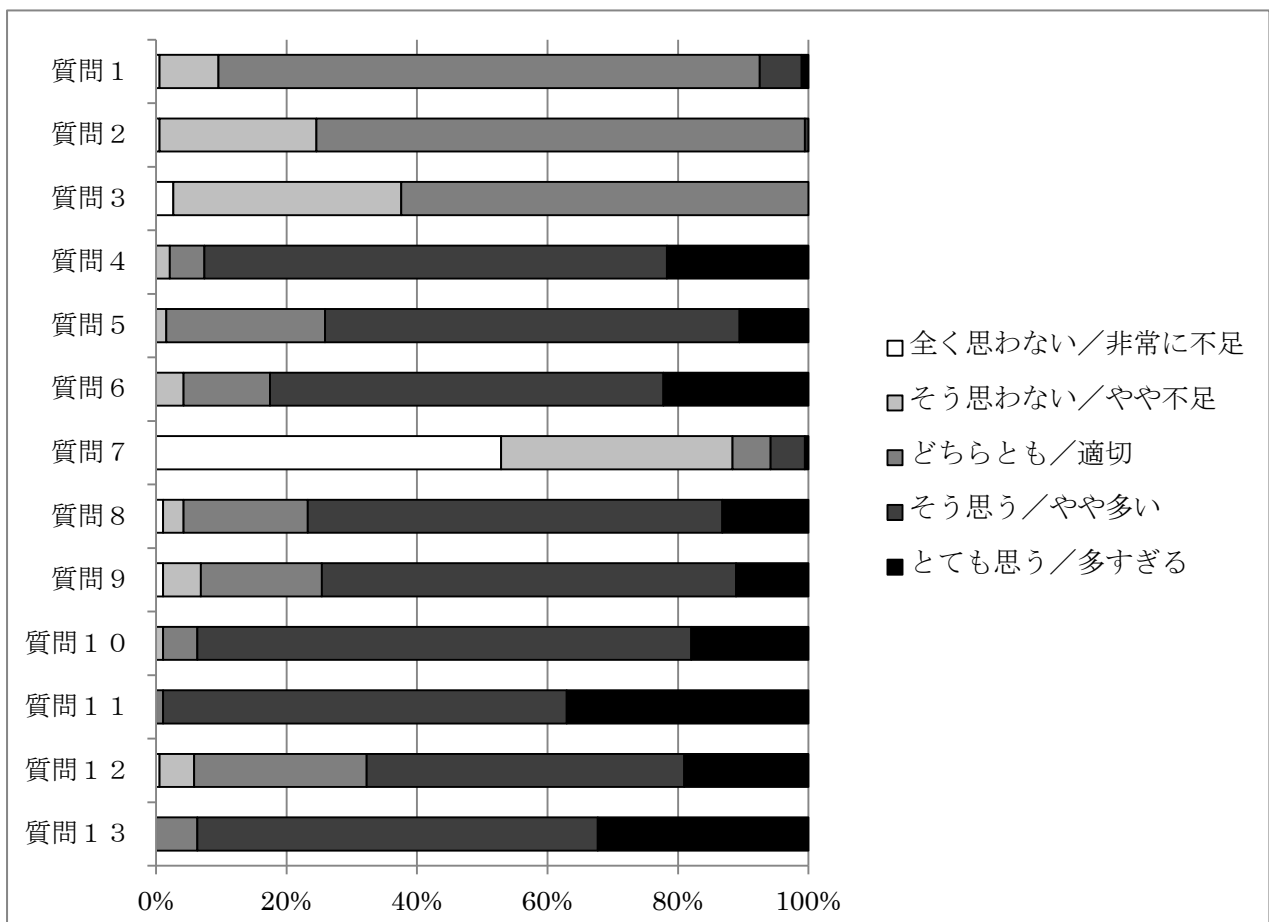
Phase3 クリニカルスキルプログラム アンケート

調査対象：H22・23年度 医学科3年生（H25・26年度分は、H26年7月にアンケート実施予定）

調査日：「臨床入門」授業終了日

調査内容：

1. 1回の授業/実習時間（90分）は適切でしたか
2. 授業時間数は適当でしたか
3. スキルトレーナの人数は適切でしたか
4. スキルトレーナの講義や実技の説明は分かりやすいものでしたか
5. 実施の内容や方法は興味がわくような工夫がなされていましたか
6. 質問・相談しやすいような配慮がされていましたか
7. スキルトレーナが医師ではなく訓練を受けた看護師であったことで、学習に問題が生じましたか
8. 毎回の実習の最後に簡単なテストを行う事は、内容の理解を深めるのに有用でしたか
9. 臨床入門筆記試験を行う事は、内容の理解を深めるのに有用でしたか
10. このプログラムに参加して臨床技能の知識や技能が増えたと感じましたか
11. このプログラムに参加して臨床技能の重要性や興味を感じましたか
12. 臨床医学と並行して臨床技能を学んだことは、講義やPBL・TBLに役立ちましたか
13. 総合的に見て本プログラムは3年次医学生に有益だと思いますか



	内 容	時間・人数
Phase I	医療入門 I 付添い実習における外来患者と学生のマッチング	10 時間、学生 110 名
	医療入門 I early exposure 学外実習施設への事務連絡	
	医療入門 I 医療面接デモンストレーション模擬患者手配・打ち合わせ・資料作成・レポート集計	1 時間、SP 1 名
Phase II	医療入門 II 医療面接 RP 模擬患者手配・打ち合わせ・資料作成・レポート集計	3 時間、SP18 名
Phase III	PBL 関連講義 学生アンケートおよび出欠の集計・ユニット毎報告・報告書作成	640 時間
	3 年次クリニカルスキル 医療面接 RP 模擬患者手配・打ち合わせ・資料作成・レポート集計	6 時間 SP のべ 32 名
	4 年次臨床入門講義 学生アンケートおよび出欠の集計・報告	48 時間
	4 年次臨床入門 カリキュラム管理、打ち合わせ	96 時間
	4 年次臨床入門 医療面接 RP 模擬患者手配・打ち合わせ・資料作成・レポート集計	9 時間 SP のべ 49 名
	ユニット CBT 運営 (問題入力・試験監督・結果集計・報告)	6 回
	TBL 運営 (IRAT・GRAT 採点・集計、応用課題の質管理)	53 回
	mini-OSCE 運営	本試・再試
	共用試験 OSCE 運営補助 採点結果入力、データ管理、録画、模擬患者手配・打ち合わせ・トレーニング・振り返り	本試・再試 SP のべ 11 名
	CBT システム管理・運営	
	e ラーニングシステム管理・運営	
	PBL モニタリングシステム管理・運営	
	共用試験 CBT 結果の分析	
	医師国家試験過去問を使用した CBT システムの構築	
Phase IV	総合診療部実習 SP セッション 模擬患者手配・資料作成・録画・振り返りコメント入力・レポート集計	12 時間 SP のべ 213 名
	Advanced OSCE 運営補助 試験録画、模擬患者手配・トレーニング・振り返り	本試・再試 SP のべ 12 名
Phase V	選択科目「PBL 教育方法の学習、開発」 オリエンテーション 資料作成・レポート集計	9 グループ 学生 34 名
模擬患者 関連	模擬患者グループ“のぞみ”運営 (スケジュール管理・連絡・トレーニング・謝金手続き・報告書作成等)	SP 23 名
国際交流 関連	学生の海外派遣に関する手続き【ハワイ大学 WS・輔仁カトリック大学・KMC 臨床実習】(連絡窓口、参加者募集・選考、オリエンテーション、事前学習資料準備、奨学金申請、報告)	7 名
	留学生受け入れに関する手続き (カリキュラム管理、実習先への依頼、宿泊・交通・終了証の手配、奨学金申請、報告)	7 名
	JASSO 奨学金申請書類作成 (一人あたり 80,000 円)	4 名

H25 年度 模擬患者グループ“のぞみ”活動記録

月	日	時 間	内 容
4	15	14 : 00～15 : 30	H25 年度第一回打ち合わせ
		15 : 30～16 : 30	Advanced OSCE 振り返り
5	1	16 : 15～17 : 15	Advanced OSCE 再試験
	13	14 : 30～16 : 00	5 年次総合診療部実習
6	3	14 : 30～16 : 00	5 年次総合診療部実習
	24	14 : 00～14 : 30	見学者に対する説明
		14 : 30～16 : 00	5 年次総合診療部実習
7	16	14 : 30～16 : 00	5 年次総合診療部実習
		16 : 00～16 : 30	唐津看護専門学校 OSCE 説明
	29	14 : 00～15 : 30	シナリオ練習
	31	14 : 00～15 : 30	シナリオ練習
9	9	14 : 30～16 : 00	5 年次総合診療部実習
		16 : 00～17 : 00	唐津看護専門学校 OSCE 打ち合わせ
	30	14 : 30～16 : 00	5 年次総合診療部実習
		16 : 00～17 : 00	新人シナリオ練習
10	21	14 : 30～16 : 00	5 年次総合診療部実習
	30	13 : 00～15 : 30	3 年次医療面接ロールプレイ
11	6	13 : 00～15 : 30	3 年次医療面接ロールプレイ
	11	14 : 30～16 : 00	5 年次総合診療部実習
12	16	14 : 30～16 : 30	5 年次総合診療部実習+持ちネタ相談会
1	15	14 : 00～16 : 00	4 年次臨床入門医療面接ロールプレイ
	20	14 : 30～16 : 00	5 年次総合診療部実習
		16 : 00～16 : 30	OSCE 新人オリエンテーション
	22	14 : 00～16 : 00	4 年次臨床入門医療面接ロールプレイ
	29	14 : 00～16 : 00	4 年次臨床入門医療面接ロールプレイ
16 : 00～17 : 00		共用試験 OSCE シナリオ読み合わせ	
2	3	16 : 00～17 : 00	共用試験評価者との打ち合わせ
	8	8 : 30～16 : 00	共用試験 OSCE
	10	14 : 30～16 : 00	5 年次総合診療部実習
3	3	14 : 30～16 : 00	5 年次総合診療部実習+共用試験 OSCE 再試打ち合わせ
		16 : 00～17 : 00	Advanced OSCE シナリオ読み合わせ
	5	14 : 00～15 : 30	共用試験 OSCE 再試
	10	14 : 00～15 : 00	Advanced OSCE 練習
	19	8 : 30～17 : 30	Advanced OSCE

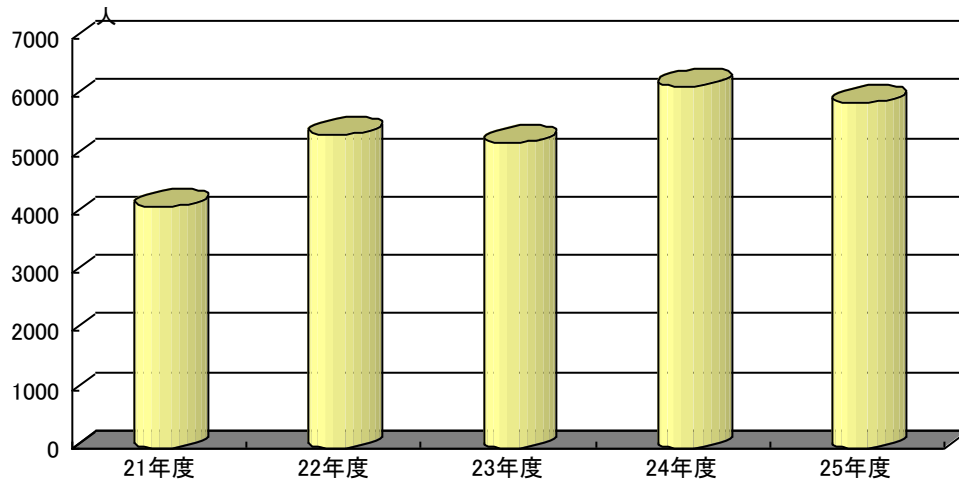
平成 25 年度 スキルラボ利用状況報告書

平成 26 年 5 月 30 日

大坪芳美 山崎加奈枝 原口まさ美

学生サークル SILS による「学外 BLS 講習会」や附属病院看護部や看護学科教員による研修会の開催など、昨年に引き続き学外者向けの講習会が活発に行われ、より幅広く活用されている。平成 25 年度は実習棟改修工事に伴う移転作業等のために利用できない時期もあり利用者延べ人数は、24 年度に比べると 300 人弱減少し 5,902 人であった。平成 21 年度から 5 年間のスキルラボ利用者推移を図 1 に示す。

図 1 スキルラボ利用者推移



平成 23 年度から 25 年度の利用者数の月別比較を、図 2 に示す。さらに平成 25 年度スキルラボ利用者の状況を月別・利用者別に表 1 に示し利用状況を比較し検討した。

図 2 利用者数比較

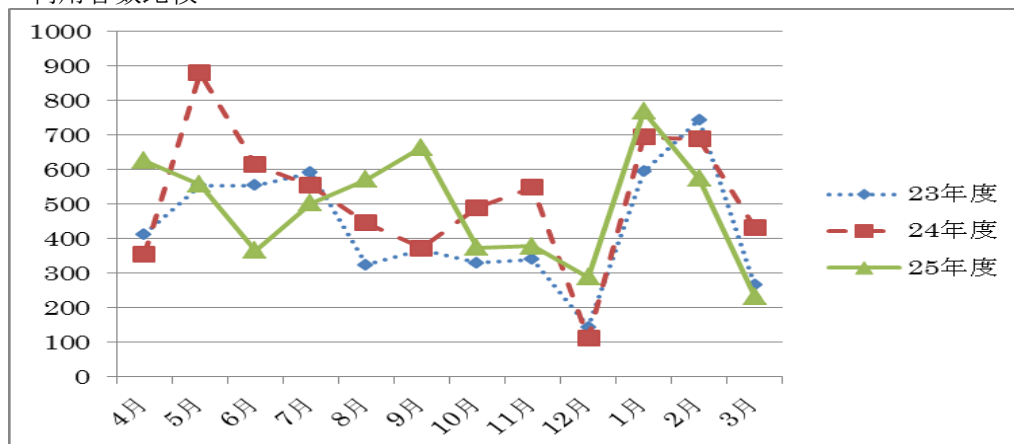


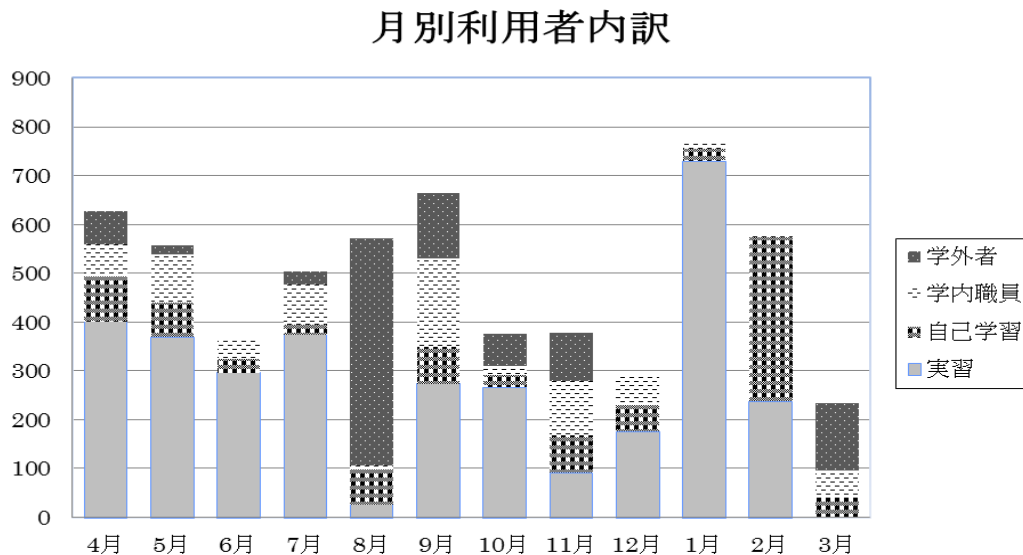
表1 平成25年度 スキルスラボ利用状況

	利用者数	内 訳			
		学生		学内職員	学外者
		授業	自主学习		
25年4月	626	400	92	66	68
5月	557	368	71	98	20
6月	365	295	58	42	10
7月	503	343	22	81	17
8月	571	25	73	7	466
9月	664	273	76	181	134
10月	374	265	26	19	64
11月	378	90	76	112	100
12月	288	175	54	59	0
26年1月	769	729	24	16	0
2月	575	236	336	3	0
3月	232	0	40	54	138
合計	5902	3229	918	738	1017

学生サークルSILSは、中・高校生対象（附属中学校・龍谷高校）、PT・OT対象（副島病院）、保育士対象（新栄保育園、脊振保育園）にした「学外BLS講習会」をおこなった。また附属病院看護部や看護学科教員による学外者向け講習会も活発に行われ、スキルスラボは大学の地域貢献に役立ち十分に活用されているといえる。

平成25年度利用者を月別に比較し、図3に示す。8月はオープンキャンパスや社団法人佐賀県看護協会の研修会参加の学外者の利用が増加し、4～7月は実習での利用が増加、1月はOSCE実施に向けての実習や2月はその自己学習のために多く利用された。

図3 月別利用者内訳



次に学外者利用状況の詳細について表 2 に示す。

表 2 学外者利用詳細

日 程	内 容	参加者数		担 当 講 座 等	開 催 場 所
		学内	学外		
4/5	看護協会 新人職員研修	1	68	成人・老年看護学講座	学内
5/10	龍谷高校 BLS セミナー	8	17	学生サークル SILS	龍谷高校
6/29	BLS セミナー	30	10	学生サークル SILS	学内
7/7	BLS 講習会	9	17	卒後臨床研修センター	済生会唐津病院
8/7	看護協会訪問看護師養成講習会	1	40	附属病院看護部	学内
8/8	オープンキャンパス	20	200	学生サービス課	学内
8/9	ACLS 研修会	1	11	救命救急センター	医師会
8/20	保健所 BLS セミナー	6	13	学生サークル SILS	佐賀中部保健所
8/21	看護協会研修会	2	50	成人・老年看護学講座	学内
8/28	附属中学 BLS セミナー	12	152	学生サークル SILS	附属中学校
9/9	副島病院 PT・OT BLS 講習会	6	12	学生サークル SILS	副島病院
9/26	BLS 講習会	1	30	救命救急センター	島田病院
9/28	ALS ワークショップ	30	90	学生サークル SILS	学内
10/14	日本内科学会 JMECC	10	12	卒後臨床研修センター	学内
10/18	新栄保育園 BLS セミナー	8	27	学生サークル SILS	新栄保育園
10/26	脊振保育園 BLS セミナー	5	25	学生サークル SILS	脊振保育園
11/15	排尿機能セミナー	10	100	泌尿器科	学内
3/1	赤ちゃんの緊急時対処法講習会	4	18	女性医師支援窓口	学内
3/21	ACLS ワークショップ	40	120	学生サークル SILS	学内

地域包括医療教育部門支援活動報告

指導教員の熱意や学生サークル「SILS（旧蘇生の会）」の意欲的な活動により学内外の講習会等を活発におこなった。以下に①腹部超音波入門講座、②学生サークル「SILS（旧蘇生の会）」の活動を紹介する。

① 腹部超音波入門講座

平成 21 年度から腹部超音波入門講座を開催し、5 年が経過した。平成 25 年度は肝疾患医療支援学講座の河口康典先生にご協力いただき、参加した学生の評判も大変よく、案内メール送信当日に定員の 5 名に達する月もあった。平成 25 年度の開催日程および受講者の内訳を表 4 に示す。

表 4 腹部超音波入門講座 開催日程および受講者

日 程	受 講 者
平成 25 年 4 月 25 日 (水)	医学科学生 3 名 職員 2 名
5 月 29 日 (水)	薬剤部実習生 3 名 職員 2 名
6 月 20 日 (水)	医学科学生 2 名 職員 3 名
7 月 18 日 (水)	看護学科学生 4 名 職員 1 名
9 月 18 日 (水)	薬学部実習生 2 名 大学院生 1 名 職員 2 名
10 月 23 日 (水)	医学科学生 3 名 職員 2 名
11 月 20 日 (水)	職員 1 名
平成 26 年 1 月 22 日 (水)	医学科学生 1 名 職員 2 名

②救急医療サークル「SILS」（医療教育部門支援）活動報告

10211022 小出容平

【沿革と概要】

SILSは「蘇生の会」という名で救急救命に関する学習活動をする団体として2003年に創部されました。当初は定期的にACLS（Advanced Cardiovascular Life Support：二次救命）の学習会を行うことを主な活動としていましたが、2008年の夏から、学生どうしでBLS（Basic Life Support：一次救命）を教え合う活動を新たに始め、学生間での心肺蘇生法ならびにインストラクション能力の向上を目指してきました。

2010年の秋からは一般の方々にBLSを普及する活動を本格的に開始し、2014年5月現在、すでに20回以上の一般の方向けBLS講習会を開催しています。2010年度よりサークル名を現在の「SILS（Saga-univ. Instructors of Life Support）」と改め、今後は学内外でのBLS講習会を活動の軸にしつつ、ACLSや下級生の実習指導、メンバー間での勉強会など、幅広く活動をしていこうと考えています。

【学内BLSセミナー】

学生どうしでBLSを教え合う「学内BLSセミナー」は、年間2～3回開催され、昨年度まで20回、延べ300名以上が受講しました。昨年度は6月29日に鍋島キャンパスで行い、約30名の1年生が参加し、SILSのメンバーになってくれました。主な対象は学内の学生ですが、他学部や他大学・医療系専門学校からも広く参加者を受け入れてきました。受講生は二回目以降の参加の際はインストラクターとして指導する側にまわり、新たな受講生にBLSを教え、自分の知識の再確認をするとともにインストラクションの手法を学びます。最近では、産業医科大学、九州大学、聖マリア学院大学、長崎国際大学、長崎大学、熊本大学、崇城大学、大分大学、鹿児島大学でも同様のBLSセミナーが開催されるようになり、大学の垣根を越えてインストラクター同士の交流の機会も増えています。

【学外（一般向け）BLS講習会】

医学生として、心肺蘇生法やAEDの使い方を普及することで地域貢献をしていこうという考えから始まったのが学外BLS講習会です。以前からも個人としてBLSを一般向けに教える機会はありましたが、サークルとしての正式な講習活動が始まったのは2010年10月で、これまで12回にわたって講習会を開催しました。昨年度は以下の6回となります。

- ・2013年5月10日：龍谷高校 高校生17名
- ・2013年8月20日：佐賀中部保健所 患者会（めぐみ会）13名
- ・2013年8月28日：佐賀大学文化教育学部附属中学校 中学生約150名
- ・2013年9月9日：副島病院 PT・OTさん12名
- ・2013年10月18日：新栄保育園 保育士さん約30名
- ・2013年10月26日：脊振保育園 保護者の方々約30名

2014年度も一般の方々にBLSを教える場を設け救急医療の普及を行いたいと考えています。

【学内イベントでの BLS 講習会】

2013年8月8日に催された佐賀大学オープンキャンパスで BLS のブースを出し、イベントに参加した人に BLS を教えました。内容については学外 BLS 講習会と変わりません。

【学生 ACLS ワークショップ】

本サークルの活動の起点となったこの活動は、全国の医療系学生が、AHA（アメリカ心臓協会）が開催している ACLS コースをアレンジした 2 日間のプログラムを通して、救命のプロフェッショナルとしての知識と技術を学ぶ講習会です。

全国各地の大学で同様の活動が行われており、年間およそ 10～15 回のワークショップが開催されていますが、九州では 2008 年から「ALL 九州」として九州圏内の大学が持ち回りで、半年に 1 回のペースでワークショップを開催しています。佐賀大学ではこれまでに 2008 年 3 月、2008 年 9 月、2010 年 9 月、2012 年 3 月と 4 回学生ワークショップを開催しました。その際参加した学生は運営・参加者・インストラクター合わせて学内外で 150 名ほどにのぼります。今年度は 2014 年 3 月 21～22 日に鍋島キャンパスで開催し、多くの学生から「楽しかった。」「参加してよかった」との喜びの声を頂きました。

【学内 ALS セミナー】

上で紹介したワークショップは BLS・ACLS の両方を 2 日かけて学ぶものですが、参加できる枠は限られています。そこで 2011 年度より年 1 回ペースで、BLS を既に受講した人限定で ACLS の 1 日コースを開催しています。事前予習を徹底することにより参加者到達度も高く、また 1 日の参加で ACLS の勉強ができるのは良いなどと参加した人からは大変好評をいただいています。

【下級生の実習指導協力】

2008 年からは医学科の 1, 2 年生を対象に行われる実習にも協力しており、1 年生には BLS を、2 年生には ACLS と気道管理を指導しています。また、2011 年度からは看護学科 3 年生の病棟実習前の BLS 実習の手伝いもしています。

【その他】

- ・他大学で開催される BLS のセミナーや全国の大学で行われるワークショップにインストラクターとして参加しています。
- ・インストラクターとして活動をするための講習会（インストラクションの技術や心得についての）も定期的開催をしています。
- ・学外 BLS の運営の中心となる部員は AHA の BLS ヘルスケアプロバイダーの講習会を受け資格を取っています。中にはそのさらに上のインストラクターの資格を持っている者もいます。
- ・AHA の ACLS Provider のコースを受講した者も多数います。
- ・今後は、BLS・ACLS といった心停止のみを扱った勉強会だけでなく、外傷や小児救急、脳卒中や心血管疾患など、幅広く救急に関する勉強会を学生主体でやっていきたいと考えています。

SILS 学外活動 報告書

08211028 品田 公太

イベント名： 3rd 龍谷高校 B L S 講習会
日 時： 2013年5月10日（金）
場 所： 龍谷高等学校
対象・人数： 高校生（1. 2. 3年）17名。6ブース作成。
講習内容： 成人 B L S（hands-only-CPR）

インストラクター（学科・学年）

渡瀬瑛（医5）、品田公太、吉村元樹（医4）、
井川寛子、小出容平、中川拓也、西村優希（医3）、山崎弘貴（医2）

機材： リトルアン+成人人形 7体、AEDトレーナー7台、銀マット7枚、
プロジェクター、スクリーン、マイクセット
i Pad, PC

【タイムスケジュール】

16：00～ 機材積み込み次第出発。到着したら会場設営
17：00～17：10 挨拶、導入
17：10～17：25 胸骨圧迫の練習
17：25～17：45 AEDの練習
17：45～17：50 いのちのバトン
17：50～18：20 一連の流れを練習
18：20～ アンケート記入、交流タイム、片づけ



SILS 学外活動 報告書

11211098 山崎 弘貴

イベント名：2013年度佐賀大学オープンキャンパス
日時：2013年8月8日(木) 8:30~16:00
場所：佐賀大学医学部キャンパス(講義棟 1203室)
対象：オープンキャンパスを訪れた高校生や保護者(200名ほど)
内容：AEDの使い方と Hands - only CPR

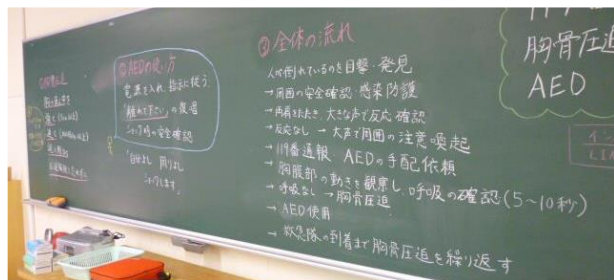
インストラクター(学科学年)

渡瀬 瑛(医 6)、品田公太(医 5)、中川 拓也(医 4)、石瀬 裕子(医 3)、田代卓(医 3)、
山崎 弘貴(医 3)、黒木 洋平(医 2)、中村由梨(医 2)、中島 央律紗(医 1)、
平川雄大(医 1)、小野詩織(看 1)、川原千穂(看 1)、下條優美(看 1)

機 材：成人BLS人形8体、AEDトレーナー8台、銀マット 16枚

【タイムスケジュール】

8:30 インスト集合、会場設営
9:00 学生課にて受付、リハーサル
9:30~ 高校生や保護者、中学生に対してインストラクション
16:00 後片付け、解散



SILS 学外活動 報告書

08211028 品田 公太

イベント名 : めぐみ会 出張講習会
日 時 : 2013年8月20日(火)
場 所 : 佐賀中部保健所
対象・人数 : めぐみ会(難病の会)13名
講習内容 : 熱中症、成人BLS (hands-Only-CPR)

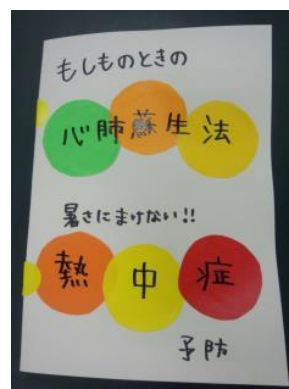
インストラクター(学科・学年)

品田公太(医5)、小出容平、西村優希(医4)、浜口美緒(看4)
山崎弘貴(医3)、平川雄大(医1)

機 材 : リトルアン2体、AEDトレーナー2台、銀マット2枚
配布資料

【タイムスケジュール】

12:30~ 機材積み込み次第出発。到着したら会場設営
13:30~13:35 挨拶、導入
13:35~14:10 熱中症
14:10~14:30 休憩
14:30~15:00 成人BLS (hands-only-CPR)
15:00~ 機材返却・解散



S I L S 学外活動 報告書

10211061 中川 拓也

イベント名 : 1st 佐賀大学文化教育学部附属中学校 B L S 講習会
日 時 : 2013 年 8 月 28 日 (水)
場 所 : 佐賀大学文化教育学部附属中学校対象・
人 数 : 中学生 (3 年) 152 名。20 ブース作成。
講習内容 : 成人 B L S (hands-only-CPR)

インストラクター (学科・学年)

渡瀬瑛 (医 6)、

浜口美緒 (看 4) 小出容平、中川拓也、西村優希、高松優光、松岡優毅 (医 4)

山崎弘貴、田代卓 (医 3) 黒木洋平、村田干博 (医 2) 平川雄大 (医 1)

外部インストラクター

九州大学 4 名 熊本大学 2 名 聖マリア学院大学 2 名

機 材 : リトルアン+成人人形 20 体、AED トレーナー 20 台、銀マット 12 枚、
P C

【タイムスケジュール】

8 : 30 ~	機材積み込み次第出発。到着したら会場設営
10 : 35 ~ 10 : 45	開会式
10 : 45 ~ 10 : 50	デモンストレーション
10 : 50 ~ 11 : 05	前半組 胸骨圧迫の練習 / 後半組 AED の練習
11 : 05 ~ 11 : 20	前半組 AED の練習 / 後半組 胸骨圧迫の練習
11 : 20 ~ 11 : 35	いのちのバトン
11 : 35 ~ 11 : 55	一連の流れを練習
11 : 55 ~	アンケート記入、交流タイム、片づけ
~ 15 : 00	機材返却・解散



平成 25 年度 地域包括医療教育部門 研究業績一覧

【著書】

1. 医学教育概論 ―医学生・看護学生に学び方を語る 〈第 5 巻〉現代社：瀬江 千史, 本田 克也, 小田 康友

【原著論文】

1. Kishi T, Ikeda Y, Takashima T, Rikitake S, Miyazono M, Aoki S, Sakemi T, Mizuta T, Fujimoto K. : Acute renal failure associated with acute non-fulminant hepatitis.B. *World J Hepatol*, 27:82-85, 2013.
2. Tateishi K, Matsubayashi T, Yoshimoto K, Sakemi T. : An investigation of the basic education of Japanese nurses: comparison of competency with European nurses. *Nurse Educ Today*, 33(5):552-557, 2013
3. Kikukawa M, Nabeta H, Ono M, Emura S, Oda Y, Koizumi S, Sakemi T. : The characteristics of a good clinical teacher as perceived by resident physicians in Japan: a qualitative study. *BMC Med Educ* 13:100, 2013
4. Takashima T, Sakata Y, Iwakiri R, Shiraishi R, Oda Y, ほか 4 名 : Feeding with olive oil attenuates inflammation in dextran sulfate sodium-induced colitis in rat. *J Nutr Biochem*.Feb;25(2),2014
5. Oda Y, Onishi H, Sakemi T. Effectiveness of student tutors in problem-based learning of undergraduate medical education. *Tohoku J Exp Med*. 232(3):223-7, 2014
6. Rachmawati NM, Fukudome K, Tsuneyoshi N, Bahrin U, Tsukamoto H, Yanagibashi T, Nagai Y, Takatsu K, Ohta S, Kimoto M. : Inhibition of antibody production in vivo by pre-stimulation of Toll-like receptor 4 before antigen priming is caused by defective B-cell priming and not impairment in antigen presentation. *Int Immunol*, 25:117-28, 2013
7. Tsukamoto H, Fukudome K, Takao S, Tsuneyoshi N, Ohta S, Nagai Y, Ihara H, Miyake K, Ikeda Y, Kimoto M. : Reduced surface expression of TLR4 by a V254I point mutation accounts for the low lipopolysaccharide responder phenotype of BALB/c B cells. *J Immunol*. 190:195-204, 2013
8. Tanaka A, Nakamura S, Seki M, Fukudome K, Iwanaga N, Imamura Y, Miyazaki T, Izumikawa K, Kakeya H, Yanagihara K, Kohno S. : Toll-like receptor 4 agonistic antibody promotes innate immunity against severe pneumonia induced by coinfection with influenza virus and *Streptococcus pneumoniae*. *Clin Vaccine Immunol*. 20:977-85, 2013

【総説】

1. 瀬江 千史, 本田 克也, 小田 康友, 北条 亮 : 医学概論教育講座, 総合看護 48 卷 1 号
Page17-28, 2013
2. 瀬江 千史, 本田 克也, 小田 康友, 北条 亮 : 医学概論教育講座, 総合看護 48 卷 2 号
Page37-48, 2013
3. 瀬江 千史, 本田 克也, 小田 康友, 北条 亮 : 医学概論教育講座, 総合看護 48 卷 3 号
Page37-50, 2013
4. 瀬江 千史, 本田 克也, 小田 康友, 北条 亮 : 医学概論教育講座, 総合看護 48 卷 4 号
Page63-71, 2013
5. 小田康友, 菅野幸子 : 日本近代医学教育百五十年の歴史を問う(8)ー医学教育論序説, 学
城 第10号,119-136, 2013

【学会発表】

1) 国内全国規模の学会

1. 吉崎 真衣, 野中 康德, 力武 修一, 高島 毅, 岸 知哉, 宮園 素明, 池田 裕次, 酒見 隆
信 : 持続血液濾過透析中患者の血中カルシウム推移の検討, 第 57 回日本透析医学会学
術集会, 2013,6,20-23, 透析会誌 46, Suppl.1, 978
2. 岡本 典子, 富吉 義幸, 北島 聡, 宮原 茂, 池田 裕次, 酒見 隆信 : イコデキストリン
(ICO)では除水が不能であった腹膜透析の一例, 第 57 回日本透析医学会学術集会,
2013,6,20-23, 透析会誌 46, Suppl.1, 946
3. 北島 聡, 岡本 典子, 富吉 義幸, 田中 宏明, 中林 奈美子, 池田 裕次, 酒見 隆信 : 右
足底鶏眼部蜂窩織炎からアスペルギルス眼内炎に至ったと考えられる血液透析患者の
一例, 第 57 回日本透析医学会学術集会, 2013,6,20-23, 透析会誌 46, Suppl.1, 795
4. 松本 圭一郎, 福成 健一, 光武 涼子, 金谷 晶子, 池田 裕次, 酒見 隆信 : セベラマー
塩酸塩とビキサロマーとの臨床使用上の比較と問題点, 第 57 回日本透析医学会学術集
会, 2013,6,20-23, 透析会誌 46, Suppl.1, 519
5. 中村 恵, 斧沢 幸司, 大塚 伸, 高島 毅, 岸 知哉, 宮園 素明, 池田 裕次, 酒見 隆
信 : CKD における腎臓専門医介入の意義, 第 56 回日本腎臓学会学術総会,
2013,5,10-12, 日腎会誌 55, 3, 423
6. 池田 裕次, 野中 康德, 吉崎 真衣, 高島 毅, 岸 知哉, 宮園 素明, 酒見 隆信 : 慢性腎
臓病における腎臓専門外来のあり方についての検討, 第 56 回日本腎臓学会学術総会,
2013,5,10-12, 日腎会誌 55, 3, 394
7. 高島 毅, 野中 康德, 吉崎 真衣, 岸 知哉, 宮園 素明, 池田 裕次, 酒見 隆信 : ネフロ
ーゼ症候群における、蛋白漏出シンチグラフィの意義の検討, 第 56 回日本腎臓学会学
術総会, 2013,5,10-12, 日腎会誌 55, 3, 390
8. 宮園 素明, 岸 知哉, 高島 毅, 吉崎 真衣, 野中 康德, 池田 裕次, 酒見 隆信 : アドリ

アマイシン誘発腎疾患ラットにおける炭酸カルシウム投与による腎 Klotho 発現に対する影響, 第 56 回日本腎臓学会学術総会, 2013,5,10-12, 日腎会誌 55, 3, 368

9. 大坪 芳美, 江村 正, 酒見 隆信 : 医学部低学年における小グループ討論の有用性と問題点-1 年次と 2 年次のアンケート調査結果より, 第 45 回日本医学教育学会, 2013,7.26-27, 医学教育 44, Suppl, 199
10. 品田 公太, 北山 仁久, 吉村 元樹, 井川 寛子, 小出 容平, 中川 拓也, 松岡 優毅, 酒見 隆信 : 学生 BLS インストラクターの成長における振り返り手法について, 第 45 回日本医学教育学会, 2013,7.26-27, 医学教育 44, Suppl, 183
11. 伊東 こずえ, 菊川 誠, 小田 康友, 谷口 純一, 藤崎 和彦, 吉田 素文 : 模擬患者と共に開発する医療コミュニケーション学習の方向性(第 3 報), 第 45 回日本医学教育学会, 2013,7.26-27, 医学教育 44, Suppl. Page198

2) 地方規模の学会

1. 古賀佑一, 佐藤早恵, 福田誠, 高島毅, 岸知哉, 宮園素明, 池田裕次, 酒見隆信 : 診断、治療に難渋した無菌性腹膜炎の透析患者, 第 46 回九州人工透析研究会, 2013,11,24
2. 北島聡, 富吉嘉幸, 岡本典子, 福島辰朗, 岸智恵, 池田裕次, 酒見隆信, 桑原伸夫 : 経管栄養開始後に汎血球減少を来した後期高齢維持透析患者の一例, 第 46 回九州人工透析研究会, 2013,11,24
3. 大塚 伸, 内海 沙織, 中村 恵, 高島 毅, 岸 知哉, 宮園 素明, 酒見 隆信, 池田 裕次 : 肺泡出血を来した急速進行性糸球体腎炎(RPGN)の一例, 第 43 回日本腎臓学会西部学術大会, 2013,10,11-12, 日腎会誌 55, 6, 1224
4. 福田 誠, 佐藤 早恵, 高島 毅, 岸 知哉, 宮園 素明, 池田 裕次, 酒見 隆信 : 当院での IgG4 関連疾患の 3 例, 第 43 回日本腎臓学会西部学術大会, 2013,10,11-12, 日腎会誌 55, 6, 1220
5. 内海 沙織, 大塚 伸, 中村 恵, 高島 毅, 岸 知哉, 宮園 素明, 池田 裕次, 酒見 隆信 : 抗凝固療法治療中にヘパリン起因性血小板減少症を発症した一例, 第 43 回日本腎臓学会西部学術大会, 2013,10,11-12, 日腎会誌 55, 6, 1218
6. 野中 康徳, 斧沢 幸司, 力武 修一, 吉崎 真衣, 高島 毅, 岸 知哉, 宮園 素明, 池田 裕次, 青木 茂久, 酒見 隆信 : ネフロン癆-髓質嚢胞性疾患群(NPH-MCKD)の関与が考えられた慢性間質性腎炎の一例, 第 43 回日本腎臓学会西部学術大会, 2013,10,11-12, 日腎会誌 55, 6, 1207
7. 松本 圭一郎, 吉崎 真衣, 金谷 晶子, 福成 健一, 宮園 素明, 池田 裕次, 酒見 隆信 : 薬剤による TINU 症候群の発症が疑われた症例, 第 43 回日本腎臓学会西部学術大会, 2013,10,11-12, 日腎会誌 55, 6, 1178

【外部資金等】

1. 酒見 隆信：科学研究費補助金 基盤研究 C（分担）「中堅看護師の『倫理的悩み』に関する実態および倫理支援システムの構築」 50,000 円
2. 小田 康友：佐賀県鍋島閑叟公顕彰医師留学支援事業奨励金 医学生海外研修事業「佐賀大学・輔仁大學交換留学臨床実習プログラム 2013」 400,000 円
3. 小田 康友：日本学生支援機構 留学生交流支援制度奨学金 短期研修・研究型「佐賀大学・ハワイ大学医学部交流」 320,000 円
4. 評価反映経費「PBL/TBLにおける教育方法改善支援システムの構築事業」 2,000,000 円
5. 評価反映経費「教育用機器の充実事業」 1,090,000 円

【学内資金】

1. 小田 康友：科学研究費助成事業の応募申請に係るインセンティブ 588,000 円